

酒田五法 風林火山



相場ケイ線道の極意

→ローソク足チャート分析のバイブル←

日本が誇る世界最古最古の相場師、本間宗久の「酒田五法」を徹底解説。

日本証券新聞の本紙連載後、昭和44年(1969年)に出版されたロングセラーの書籍「酒田五法 総論の風林火山」がオリジナルWEBとして新登場。

酒田五法 风林火山

酒田五法 風林火山

第一章 相場と本間宗久

相場への“無防備”に警鐘



深刻なデフレに伴う平成大不況と、それをたえず先見し続けてきた株価。かつて経験したことのない混迷の時代に踏み込んでいるからこそ、株価の足跡を刻んできたケイ線が従来以上に注目されている。

ファンダメンタルズ（経済の基礎的諸条件）の分析だけでは容易に測りきれない相場の奥深さを、ケイ線に見いだす人が多いのは昔も今も変わらない。

チャートは、投資家心理の揺れ動きを濃密に集積したものである。とくに陰陽足描かれた“和式野線”は、その一本一本に投資家の深い思いと経験が克明に刻まれている。

株式市場は戦後、大きく分けて（1）朝鮮動乱による特需景気（昭和二十六～二十八年）（2）神武景気（同三十年～三十二年）（3）岩戸景気（同三十三年～三十六年）（4）いざなぎ景気（同四十一年～四十四年）（5）列島改造景気（同四十七年～四十八年）（6）超低金利を背景にしたバブル景気（同六十二年～平成元年）—という六つのブームがあった。

しかし、とくに（6）を背景にしたバブル相場が崩壊した平成元年以降の市況冷え込みは極めて厳しいものがあり、個人投資家の絶望と不信、市場からの離散は周知のとおりである。先物によって現物相場が攪（かく）乱され、一方では株式市場を罪悪視するマスコミの論調に乗って政策当局の対策がたえず後手に回ってきた重大な責任は免れないだろう。

ただ、個人投資家レベルに立てば、“右肩上がりの株高神話”を信じた結果、株式市況の持つ独自の習性や相場の本質について無関心だったことが、よけい傷を深くしてしまった。酒田五法は、そうした相場に対する“無防備”を戒める歴史的教材である。

本来、投機（スペキュレーション）というのは、単純なギャンブルとは異質なものである。日本ではこの投機を罪悪視する風土が残っており、とくに株式市場を博打場のようにみなして“バブル潰し”に励んだかつての日銀、大蔵省

酒田五法 風林火山

がその後の経済運営に重大な障害をもたらしたのは言うまでもない。

しかし、ヨーロッパでは「投機とは合理性の追求であり、不条理への挑戦である」と言われ、したがってビジネスの世界でも「投機を知らずして、大事な財産を守れない」との見方は日本とは比較にならないほど浸透している。

相場の世界には、あまりにも材料が数多く錯綜し、個人投資家にはなかなか判断がつかないケース、例えば平成元年夏～同二年にかけての「湾岸危機」と「湾岸戦争」のように専門家の間でも見通しがつかず、また大きく読みが外れる場合も少なくない。

ただ、そうした時、「相場は相場に聞け」という格言に忠実になって市況に耳をすます姿勢が重要だ。よく言われるように「相場は嘘（うそ）をつかない」からだ。株価がこうした先を読む力をいかに発揮するのは、なぜか。その解答は、ある識者による以下の説明で十分だろう。

「株価はその騰落が直接、命から二番目のものに響く、内外何百万、何千万の投資家—それも世界各国の支配層に近い人々の景気予測にもとづいた売り買いによって決められるもので、基調としてみた場合、その先見性には驚くべきものがある。予測の結果が少しぐらい狂っても格別どうということのない、一握りのエコノミストとは訳が違う」（松本和男『株価変動と景気循環』）。

ところでこのような不特定多数の投資家の思惑がぶつかりあい、結果的に最大公約数の方向に動く相場をさらに探っていく時、「その底に経験的な法則は発見できないものか」という疑問がわく。ケイ線（チャート）研究、あるいはケイ線論というものが生まれるゆえんだ。

もちろん、ケイ線は万能ではない。しかし、栄枯盛衰の歴史を振り返れば人間心理の不変性、共通性がわかるように、相場の世界でも投資家心理の経験的な「法則性」が認められるのも事実。その投資家心理の急所をズバリ表現しているのが酒田五法である。

ある程度、経験的な法則をのみこんでかかれれば、相場の興味も深くなるし、ムードや群集心理だけで、無定見に売ったり買ったりすることもないだろう。どんな仕事でもスポーツでも、特定のルールがあり、技術が必要とされるが、相場の世界も同じであり、そこに足を踏み入れるかぎり先人の残した教訓をマスターするのは、必要な技術習得というべきだろう。「敵を知り、己を知れば、百戦あやうからず」だ。

ところで、この「己を知る」ということが相場の世界では、もっともむずかしい。一九六〇年代以降米国式のケイ線（チャート）もいろいろ導入され、また個人的に精緻なチャートも、いろいろ考案されてはいるが、日本古来の米相場から生まれているケイ線論は、結局「相場はハラの問題」として、精神の鍛錬を重視しているのは大変な特徴であり、優れた点であろう。

酒田五法 風林火山

東洋的な精神論だけでは、実戦の役に立たないが、“劔禅一味”という言葉があるように、精神が統一されていないと技術も生きてこないし、どうしてもムードに溺れてしまいやすい。昔から相場の格言には、人間心理の急所をつくとともに相場の法則をズバリ表現している名言が多い。本書がとりあげている酒田憲法とは、昔から「三猿金泉録」とともに相場の二大教典とされているもので、その原典は「本間宗久翁秘録」である。これは現在のような型に表現したケイ線ではなく、およそ百六十箇条にわたる文章であり、この宗久翁の説いた相場の変化にもとづいて後世の人が工夫を重ねて具体的な線型（足）に要約し、名称をつけたものだ。

これにはたとえば華道なら、同じ池ノ坊から多くの流派が生まれているように、少なくとも五、六派の酒田ケイ線論があるようだ。その一種と思われるが、本書は、昭和二十四年ごろ“箕山道人”という著者名で自費出版された「証券売買の秘宝」という一書から要点を学んだものだ。この「秘宝」は類書の中でも、もっとも明快かつ実戦的にまとめられている珍しい本である。

本書の題名は「酒田五法は風林火山」である。風林火山は、いうまでもなく孫子の「故に其の疾きことは風の如く、其の徐かなることは林の如く、侵掠することは火の如く、動かざることは山の如く……」からとったものだ。

短期、長期を問わず株式投資の一大基本は天井とみればすみやかに利食い、底とみればすばやく買う。わかりにくい相場であれば休まなくてはならない。則ち、風林火山の心が必要となり、酒田五法の精神とするものは「売る、買う、休む」の三法にあり、出動?手仕舞いに際しては敏なることと教えている。本書の題名とするゆえんについては、多くの説明を必要としないであろう。

第二章 相場の名人・本間宗久

百戦連勝、相場の神様といわれた本間宗久は徳川八代将軍吉宗の享保九年（一七二四年）に出羽国庄内（現在の山形県酒田市）に生まれた。

生家は「本間様には及びもないが、せめてなりたや殿様に」とうたわれた日本一の大地主、本間家である。この本間家の初代当主原光の五男で幼名を重信、熊次郎、伝治と言い、後に久作、久米などと称し、最後に宗久として通している。

宗久の母は原光の二度目の妻、鶴岡市（山形県）の医師宮本高哲の娘・お松で、この人の子は宗久とその上の四男春庵（医師）の二人だった。宗久の妻は近くの新堀村に住む加藤勘右衛門の娘・美也という人で、兄の光寿（本間家二



酒田五法 風林火山

代当主)の妻の妹である。この夫妻の間に男女二人の子供があったが、二人とも若くして死んでいる。そこで妻の実家から養子を迎えて宗久の後を嗣がせた。

宗久が初めて相場を張ったのは兄の光寿から本間家の営業を託されていた時代、つまり寛延三年(一七五〇年)本間家の三代目当主、光丘が姫路(兵庫県)の奈良屋に見習修業中で、光寿晩年のころである。

酒田は出羽米(いまの庄内米)の大集散地であったので、宗久は当然のように米の売買と投機に手を出した。この辺の事情について宗久遺書に「そもそも両羽の地、美田沃野数十里にわたり、古来米産をもって世上名あり、加ふるに酒田米会所の機関ありて、売買はなはだ円滑、四方の商人、正米買入れのために輻輳するもの常に船を港口に泊して帆樫ために林の如し、ああ、吾が従事すべきは、これ米商なるかな」と書いている。宗久の米相場に対する意気込みが読みとれる。

宗久は早速米相場の研究を始め、実践に移したが、買えば当たり、売れば当たりで、わずかの間に数万金の利を得たと伝えられている。

間もなく光丘が姫路の見習修業から帰ると、光寿は財産を兄弟に分配したが、そのとき末弟である宗久には兄三人のだれよりも多い額を渡している。宗久の才能と本間家への貢献度を考えてのことであろう。

宗久はこの金を懐にして大阪へ出て、そこで堂島の米会所(米の取引所)を見た。当時の堂島市場は米市の創始者である豪商淀屋が諸大名の蔵屋敷を背景に羽振りをかかせていた時代で、激しい売り買いに相場師たちが一日大名一夜乞食の悲喜劇を繰り返していた。もちろんその取引規模は当時は日本一で、酒田の比ではない。

さて宗久は本間家を嗣いだ光丘とはからって大量の庄内米を酒田港から積み出した。この米は日本海沿いに西下、難所といわれた能登半島沖を乗り切って福井県の敦賀、小浜から大津を経て京都に回米、ここで売りまくる一方、京都と大阪の米会所を舞台に期米相場に挑んだ。

なにしろ当時の本間家は二十四、五万石といわれた豪農であり、この現物を背景にしているから強い。しかも米の作柄の情報も刻々入る。

こうした恵まれた条件もさることながら、宗久は天才的相場師であった。年々の記録を集積して天然・気象を予見、作柄の豊凶を割り出すという自然の法則に従って売買する合理性に加えて、大胆不敵で進退自在な攻防はいつも仕手戦に花を咲かせ百戦連勝、常勝不敗の大記録を打ち立てるとともに、たちまちのうちに巨万の富を築き上げた。

当時“出羽の天狗”の異名をとるほど畏敬され、業界の大立物にのしあがったのは当然である。

酒田五法 風林火山

関西市場を席捲して相場の神様とさわがれた宗久は、こんどは江戸をねらった。当時の江戸は将軍のお膝元だけに経済力と物資の動きは大阪をはるかにしのいでいた。米の取引所も神田、浅草、深川、永島町、通三丁と五つもあって殷賑を極めていた。ここに乗り込んだ宗久はスケールの大きい売買を展開、天才的相場師の面目を遺憾なく発揮して空前の巨利を得た。“出羽の天狗”はここでも米穀問屋を慄え上がらせたのである。その神出鬼没、進退ぶりはまことにあざやかで、当時江戸の町々では、

酒田照る照る

堂島くもる

江戸の蔵前雨が降る

という俗語がはやったほどで、宗久の天才ぶりは、いまでも日本の米市場史に燦然と輝いている。

かくて、天才の名声と巨万の富を得た宗久は、江戸根岸に豪邸を構えて、悠々自適の生活を送ったが、晩年は上野寛永寺から相模守に任ぜられ、「江戸本間」とか「根岸本間」と称され、幕府の財政の相談にも与かっている。最後は仏門に入ったが、享和三年（一八〇三年）の春、光彩陸離たる七十八年の生涯を梅の咲く根岸の里で閉じた。

この宗久が活躍した時代は現在の激動時代に相通じるような“天明の大飢饉”があったり、百姓一揆も続発して米相場を中心に経済が激動した時代であっただけに、その存在は一段とクローズアップされるわけだが、彼が残した「酒田戦法」「相場三法の伝」こそは古今東西の数多い相場に関する本の中では一番の名著であることに異論はあるまい。というのは、宗久は江戸時代の単なる天才相場師というだけではない。

その見識、実践、人生訓の総てにおいて教えるところがきわめて多く、その書は現代の株式相場にも立派に通用するすばらしい古典であるからである。

酒田五法 風林火山

酒田五法 解説編 解説編

最強の相場師、本間宗久とは？

ここでは、酒田五法を作り出した本間宗久の人生を紹介していきましょう。



江戸時代の日本は世界的な経済先進国

江戸時代の日本は、世界に先駆けて米の先物相場が出来上がっていました。先物相場とは、商品の価格を安定させたり、商品の需給量の調整を行うために開かれる相場のこと。今でいう商品先物と同じような取引相場です。そして、驚くことにここではすでに、ローソク足が発明され、罫線法という、いわゆるチャート分析法も編み出されていたともいいます。徳川幕府の強固な国内統一や鎖国体制によって、日本国内の治安、経済は安定したことによって、当時の日本は経済的に最先端を走っていたといえるでしょう。

そして、その先物相場で百戦連勝、相場の神様といわれ、今でも現代に通じるチャート攻略法である「酒田五法」を作り出したのが本間宗久なのです。
米相場で百戦連勝、巨万の富を築いた宗久

本間宗久は今をさかのぼること 280 年ほど前、江戸時代後期の 1724 年（1717 年の説もあり）に出羽国庄内（現在の山形県酒田市）にて生まれました。

生家は「本間様には及びもないが、せめてなりたや殿様に」とうたわれた酒田の豪商で大地主、本間家です。宗久はこの本間家の初代当主・原光の五男として生を受けました。

宗久が初めて相場を張ったのは、本間家二代目当主である兄の光寿から本間家の営業を託されていた時代（1750 年頃）。本間家があった酒田は出羽米（今の庄内米）の一大生産地であり、宗久は当然のように米の売買と投機に手を出すようになります。宗久は米相場の研究を始めて実践に移しましたが、買えば当たり、売れば当たりでわずかの間に数万金の利を得たと伝えられています。

その後、兄の光寿が世を去り、甥にあたる光丘が三代目当主となります。宗久は光丘とはからって大量の庄内米を売りに出す一方で、京都と大阪の米会所（米相場）を舞台に米相場に挑みます。当時の実家の本間家は二十五万石ともいわれた豪農でもあり、米の現物を背景にした上、作柄情報が刻々と入るとい

酒田五法 風林火山

う恵まれた環境に加え、宗久は天才的な相場師でもありました。記録に裏付けられた合理的な作柄の豊凶予測とともに、大胆不敵で進退自在な攻防によって、仕手戦に花を咲かせ、連勝記録を打ち立てていきます。常勝腐敗の記録を打ち立てた宗久は巨万の富を築き、“出羽の天狗”と讃えられるまでになっていきます。

関西市場を席卷して、相場の神様と騒がれた宗久は、いよいよ江戸へと乗り込みます。そして、ここでもスケールの大きな売買を展開し、天才的相場師の面目を発揮して空前の巨利を得ます。宗久は生涯で現在のお金にすると1兆円以上になるともいわれています。かくて、天才の名声と巨万の富を得た宗久は、江戸根岸に豪邸を構えて悠々自適の生活を送りましたが、晩年は幕府の財政指南役として相談にもあずかっていたといえます。

米相場で百戦連勝、巨万の富を築いた宗久

そして、その本間宗久の相場観を元に作られた必勝法が、ローソク足の組み合わせからチャートを読み解く「酒田五法」です。日本では欧米でチャートが生まれるはるか昔に、優れた罫線法を作り出されていました。本間宗久は、その罫線に見え隠れする投資家の心理状態を読み、相場の必勝法を生み出していたのです。酒田五法は、本間宗久の相場伝を元にして、後世の人々が、わかりやすいローソク足を使った法則に変化させながら、発展していきました。私たちは、酒田五法の普遍性を、今でもさまざまな酒田五法のパターンを、株価や為替、先物などさまざまなローソク足の中に簡単に見出すことから確認できます。

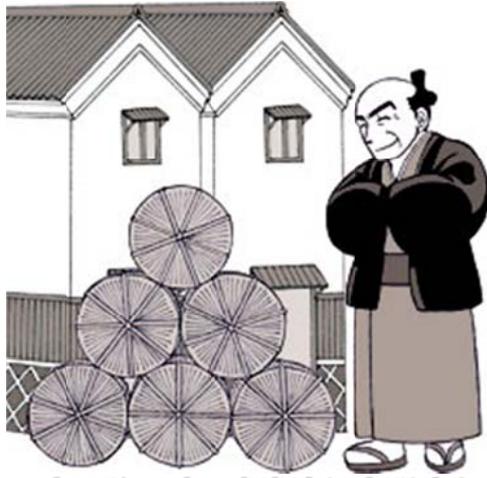
現在では、ローソク足自体もキャンドルスティックの呼び名で、世界中の投資家にとっても一般的なものとなりつつあります。世界中の投資家に酒田五法が浸透するときがくる日も、そう遠い未来ではないかもしれません。

本間宗久年表

- 1724年 出羽国庄内（現在の山形県酒田市）にて生まれる。当時日本一の大地主だった本間家の初代当主原光の五男。
- 1740年頃 酒田藩家老酒井家の付き人として初めて江戸を訪れる。
- 1745年 徳川家重が九代将軍となる
- 1750年 兄である二代目当主の光寿から本間家の営業を託され、初めて米相場を張る。以後、買えば当たり、売れば当たりで数万金の利を得る
- 1754年 兄・光寿永眠。光寿の長男の光丘が跡を継ぐ。光丘と計らって大量の庄内米を売り、その一方で京都と大坂の米合所（米の取引所）にて相場を張る。百戦連勝、常勝不敗の大記録を打ち立てるとともに、巨万の富を築く。人々に「出羽の天狗」と讃えられる。
- 1774年頃 江戸へ移住。相場で連勝を続け、莫大な財産を築く。以後悠々自適の生活に。
- 晩年、相模守に任ぜられ、幕府の財政相談を受けるようになる。
- 1803年 永眠

酒田五法 風林火山

相場の心理を読み解く酒田五法とは？



日本最強最古の相場師・本間宗久

酒田五法とは、江戸時代、酒田藩の豪農の家に生まれ、米の先物相場で天才的な手腕を発揮した本間宗久が書き残した「本間宗久相場三昧伝」をもとに作られた罫線（ローソク足）の分析法です。この酒田五法、宗久自身が著した「本間宗久相場三昧伝」が元になって作られました。この「相場三昧伝」は、本間宗久が米相場の中から探り出した相場の分析、投資心理、さらには人生訓までを箇条書きに著したもので、その著を参考にしながら後世の人が罫線の具体的な形にして名称をつけたものが酒田五法です。

この酒田五法は、本間宗久が没して200年以上経った今でもチャートを見る上で重要なテクニカル分析手法のひとつとなっています。酒田五法で使っているローソク足やその組合わせの名称も、チャートを扱う書籍の中では、まったく違和感なく頻繁に使われています。酒田五法は、まさに日本が生んだ、チャート分析の古典といえるでしょう。

相場の心理を読み解く酒田五法

江戸時代の米相場から導き出された酒田五法であるが、ここでは少しその大元となった「相場三昧伝」で語られている内容を少し見てみましょう。

米商いは踏み出し大切のこと

米の商いで大切なことは仕掛けである。仕掛けが悪ければ何回やっても失敗してしまうものである。またここが買い時と思ってもあせらず、三日待つべきである。天井値・底値が出ない場合には、何ヶ月でも待つこと。

保ち合い上げ放れの後

急騰急落で天井を形成した後、保ち合いが続き、人々が上放れすると動く騒ぎ立て始めた時は、絶好の売場である。人の逆を行くのが成功の秘訣である。ただし、底値での保ち合いの後の上放れは買いませしていくべきである。

酒田五法 風林火山

天井買わず、底売らず

これは相場の上では、第一の心得である。上がれば下がる、下がれば上がる。これを忘れると、どこまでも上がると思い天井で買いを入れたり、逆に底でも売ってしまったりするものである。強欲は張らずに思惑を断つことが大切である。

このように本間宗久という人は、相場の具体的な見方だけでなく、相場の心理や相場に対する心構えにいたるまで、考察していたことがわかると思います。当たり前と思う方も多いと思いますが、それを思うように実行できないのが、今も昔も相場の怖いところです。

酒田五法は、ローソク足の分析手法ですが、ローソク足には相場を張る人々の心理が凝縮されて表れたものです。

ぜひ、酒田五法を学んで、ご自身の投資に活かしてください。

ただし、本間宗久も言っていますが、相場は生き物、くれぐれも酒田五法だけに捕らわれることには注意してください。様々な角度から相場の行方を確認する冷静さを保つことが、酒田五法の教えでもあります。

酒田五法 風林火山

マンガ「本間宗久人物伝」



酒田五法 風林火山



酒田五法 風林火山

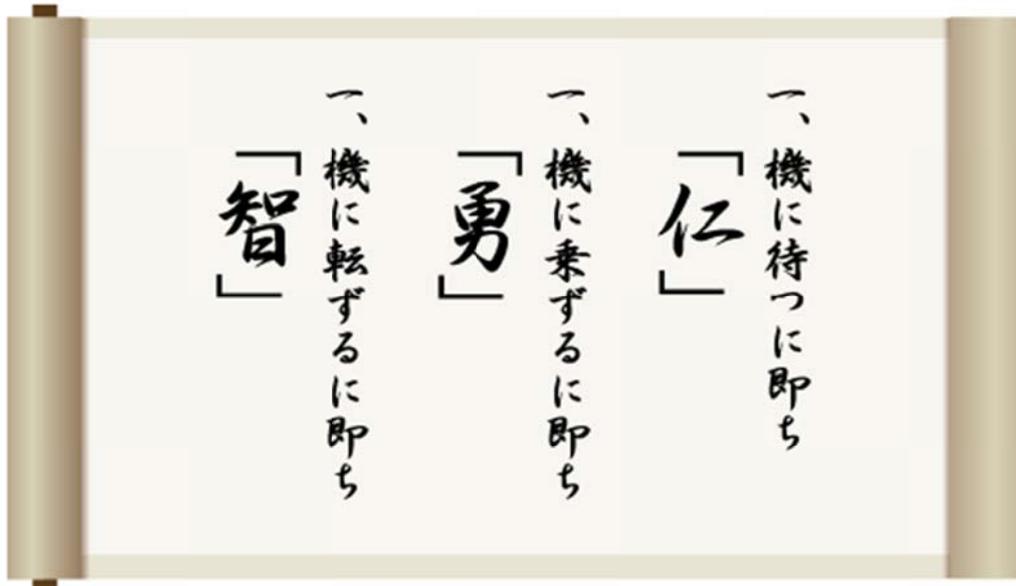


酒田五法 風林火山



酒田五法 風林火山

酒田五法投資の心得



江戸時代、本間宗久によって編み出された酒田五法のうちでも上に書かれた三つの心得は、「三位伝」と呼ばれ、酒田五法の中でも秘伝中の秘伝として、伝えられています。その意味を読み解いてみましょう

「仁」とはチャンスが来るまで努力して待つということ。そして、絶好のチャンスが来たら果敢に乗るのが「勇」であり、柔軟な対応ですぐに考えや気持ちを切り替えることが「智」となります。投資には、以上の3つが不可欠であると本間宗久は説いています。

宗久が残した書物の内容は投資の技術だけでなく、相場の心得や哲学、人生訓に至るまで幅広く網羅しており、現代にも通用する名文が随所に登場しています。ここでは、本間宗久が説く相場の心得の中から、特に投資心理についてふれている部分をいくつか紹介しましょう。

- ① 高い利運仕当たる時、先ず大概に致し、取り留むるものなり。
その節一兩日休むべし。この休むを忘るる時は、何程利運に向きても、高い仕舞いの節は決して損出べし。

相場が思い通りに運び、利が乗ったときには、適当なところで手仕舞いをして、相場を冷静に見つめるために一兩日は相場を休むことが大切。休むことを忘れて利を得ようとあせると、結局最後は損を出すことになる。

- ② われ強気の節は人も強気と思ふべし。われ弱気の節は人も弱気に片寄るなり。

酒田五法 風林火山

自分が強気ときは、他人も強気になるし、自分が弱気になるときは、他人も弱気なるもの。こんなときは、三日間待つて、人とは逆の行動を取るのが、相場（米相場）の極意。人と同じことをやっていたのでは、成功を手にする事はできない。

③ 我一分の了見にて売り買い決して致す間敷くなり。

三位の伝を表にし、立羽を極め、売買の内、一方を立て抜くべし。

自分の軽々しい判断で売買を行ってはならない。三位の伝に照らし合わせ、相場の状況（立羽）を考え抜き、方向が決まったら、買いか売りがどちらか一方を徹底的に行う（立て抜く）こと。

このように、宗久は、今でも通じる相場感をしっかり持って、米相場に挑んだからこそ成功したといえます。ぜひ彼の言葉をしっかり受け止めて、相場に臨んでいただきたいと思います。

酒田五法 風林火山

酒田五法 マスター編

酒田五法の基本

株価チャートは人間本能の表れ

酒田五法の基本は 三山 三川 三空 三兵 三法 の五法。

ここでは、酒田五法の買いと売りのパターンとして、44パターンを紹介していますが、名前にも付いている基本の“五法”をまずは紹介していきましょう。酒田五法の“五法”とは「三山」「三川」「三空」「三兵」「三法」の五つです。この基本の五法は、相場を大局に見たときの大きなサインです。投資心理も含んだ相場の基本的な形として、まずは基本の五法をしっかり身につけましょう。

【酒田五法の基本】第一法：三山

基本

高値圏で3回山ができれば天井

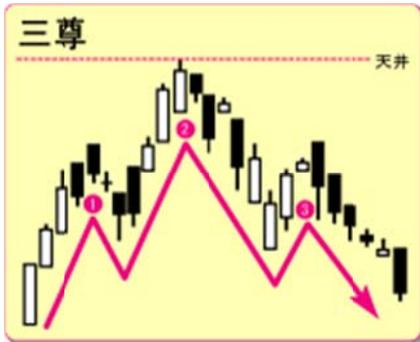


大天井を形成する骨子の線。相場が大いに上伸した後、天井圏で山を三つ作るのが三山である。三山は構成するのに1ヶ月以上がかかるものとされている。山が三つまでくれば、後は下落の可能性が非常に高い。大天井ともなれば、1年に1回以上はないものとされる。

応用

真ん中の山が高いのは強力な天井形成

酒田五法 风林火山



真ん中の天井が一番高いものを特に「三尊」という。左は普賢菩薩、中央が釈迦、右は文殊菩薩の形。アメリカでは、ヘッド・アンド・ショルダー・トップという。もっとも強力な天井形成とされている。

三尊とは文殊・釈迦・普賢のこと。



【酒田五法の基本】第二法：三川

基本

底値圏で3回谷ができれば大底

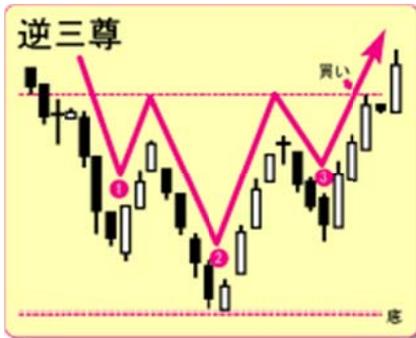


三山の逆で、底値圏で谷を三つ作るパターン。これが現れたら、大底をうち、上昇に転じる可能性は大きい。数ヶ月の下落から起こる現象とされ、大底ともなれば、三山と同じように1年に1回しか出ないのが原則。

酒田五法 風林火山

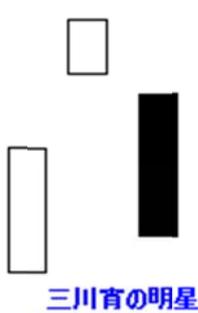
応用

真ん中の谷が深いのは強力な大底形成



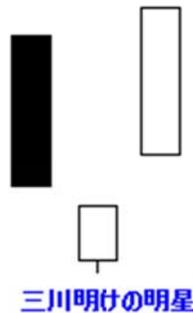
真ん中の底が一番低いものを特に「逆三尊」という。三尊の逆。三つの谷の間の山を抜けて上昇してくれば、買いどきか。三尊と同じようにもっとも強力な大底の形成とされている。

三川とは、一般的に三本の線から相場の転換期をとらえるものです。



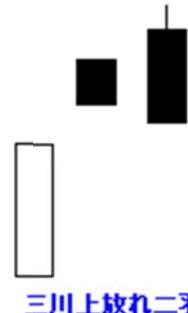
三川宵の明星

下降転換を暗示。



三川明けの明星

底入れを暗示。



三川上放れ二羽鳥

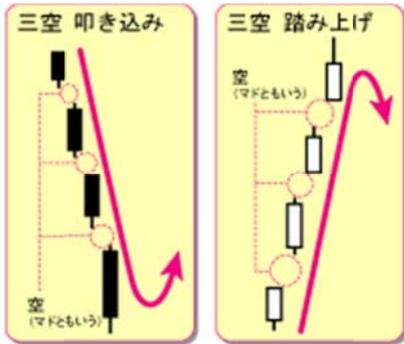
売りシグナル。

【酒田五法の基本】第三法: 三空

基本

マドが3連続で空いたら要注意、相場の転換が近い

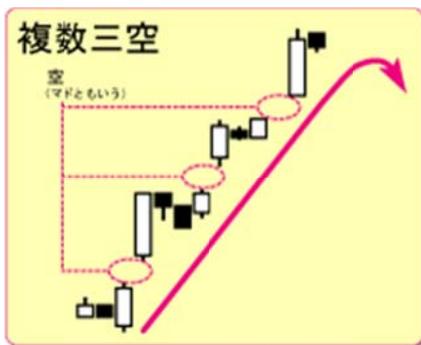
酒田五法 風林火山



3連続でマドを空け、株価が勢いよく上昇（下落）していく形。「三空踏み上げ売りに向かえ」「三空叩き込み買いに向かえ」の格言通り、相場の転換が近いと考える。酒田五法ではこのあとクロスが出たら行動開始としている。

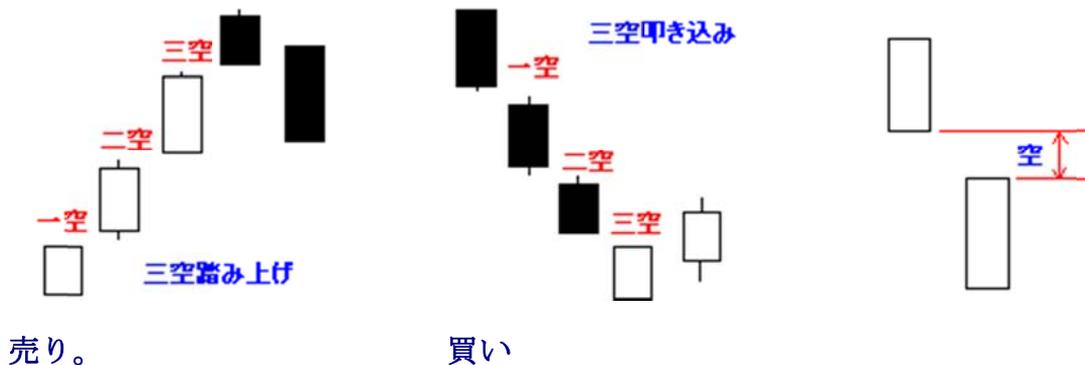
応用

複線形の三空、勢いにはやや欠けるが、要注意



基本のような単線形と比較すると、勢いにはやや欠けるものの、形は基本と同じ三空。上昇、下降のエネルギーがかなり強く出てしまったことを示している。相場の転換が近いと考えるのも基本と同じ。

これは逆張りの発想から、空が三つも続けて出るといのは行きすぎであり上げ相場も、下げ相場も終わりに近づいていると考えます。



売り。

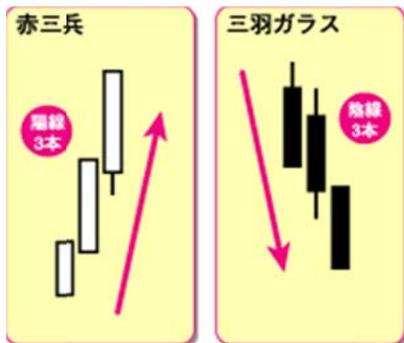
買い

酒田五法 風林火山

【酒田五法の基本】第四法: 三兵

基本

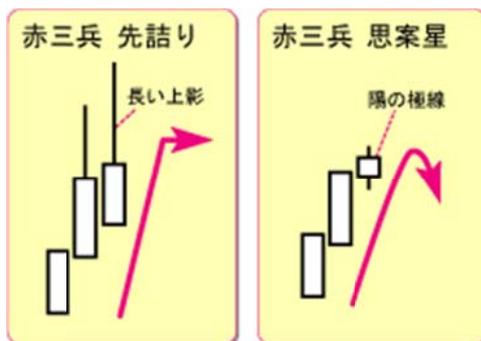
底値の陽線3本は買い転換、
天井の陰線3本は売り転換



底値での短い陽線3本を「赤三兵」、天井圏での陰線三本を「三羽ガラス」という。いずれも相場の転換点として有名なサイン。特に「赤三兵」では、短い陽線というところがポイントとされている。

応用

赤三兵でも上影、極線が出たら
上昇力は弱いと考える

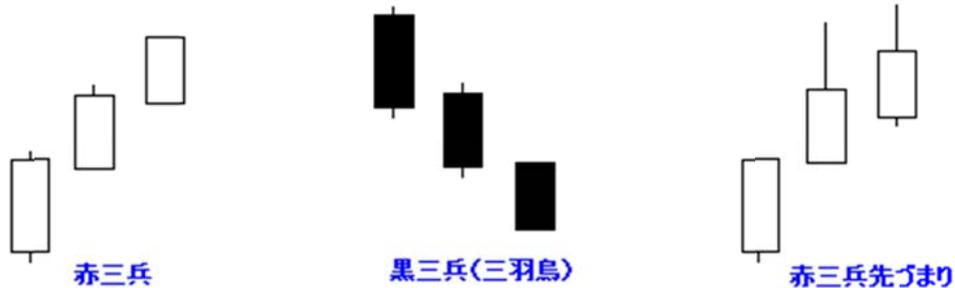


「赤三兵」でも2本目、3本目に上影を引いている「先詰まり」型、3本目に陽の極線が出る「思案星」型は、上昇力が鈍っており、下降の転換点となることも。要注意。

三兵は陽線または陰線が三本平行して同一方向に向かっている場合を指します。赤三兵は、空は出さないものの終値が確実に切り上げている形で、週足でこれが出ると、相当長期の上昇トレンドに入る可能性があります。黒三兵はその逆

酒田五法 風林火山

です。尚、赤三兵でも上ヒゲが出ている（赤三兵先づまり）は上昇力が鈍っている証拠であり売りです。



買い。

売り。

売り。

【酒田五法の基本】第五法:三法

基本

相場は「売り」、「買い」、「休む」の三法を守るべし

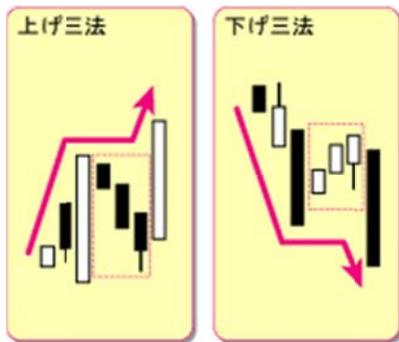


酒田五法では、「売り」「買い」「休む」が同様に大切なこととされている。「相場伝」では売買を行った後は、必ず休むように書かれている。売買は程々の利益で満足し、その後は利益に浮かれず、必ず休んで相場を冷静に見つめよとの戒めである。

応用

上げ三法、下げ三法の休み所は3本のはらみ線

酒田五法 風林火山



詳しい説明はパターン解説参照。上昇、下降途中で、相場をなかなか休めるものではないが、あえてそこを休めるようになれば、酒田五法の極意をマスターしたも同然と言えるだろう。単なる三兵ではないことを見抜けることが大切。

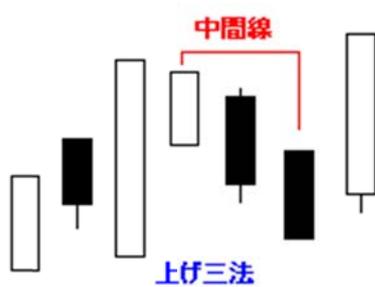
基本的に酒田五法の中でこの三法は解釈があいまいです。

上げ三法は大陽線のあと、中間の三本のはらみ線をもって、先の大陽線を下回れず、その後、再び大陽線で切り替えします。

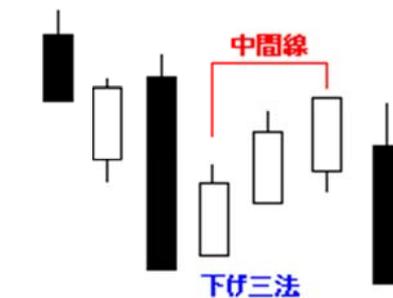
その新しい上伸力を評価するものである。下げ三法はその逆。

上放れ三法・下放れ三法は方向感が出たと思ったらそれを打ち消すような線が出てしまってよく分からないと言うことで、分からないときは休みなさいということです。

また三法とは、買う・売る・休むの三法のことだという説もあります。

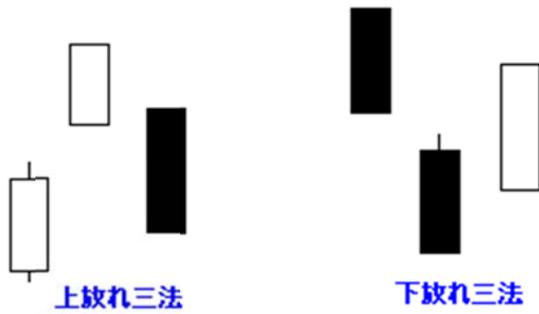


買い。



売り。

酒田五法 風林火山



休み。

休み。

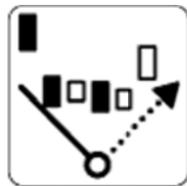
買いサイン・売りサイン 44パターン

買いサイン 底打ちでの買い時 13パターン

底値から転換での買いは、それまでの下降トレンドに逆行して買いを入れることになるので、勇気が必要となります。さらに見誤ると損失も大きくなります。酒田五法の教えが説くとおおり、チャートだけでなく相場全体を冷静に眺めてから相場に挑んでください。



連続下げ三手
放れ三ツ星



放れ七手の
変化底



鍋底



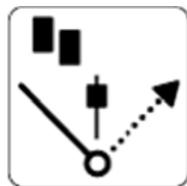
放れ五手
黒一本底



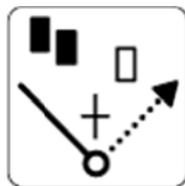
二本の
差し込み線



三手大黒線



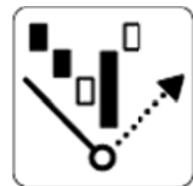
たくり線



捨て子線
(下降相場)



下位で陽線五本



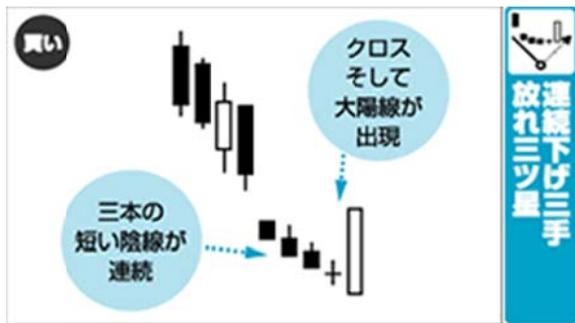
最後の抱き線
(下降相場)



酒田五法 風林火山

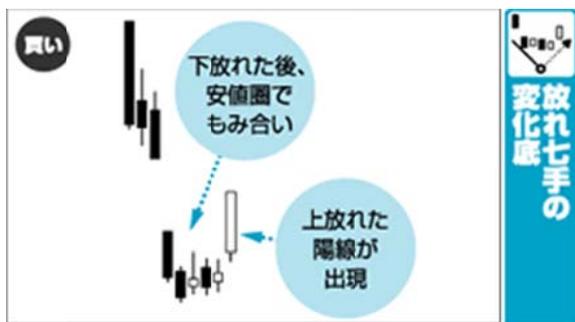
下位の抱き線 下位で 陰の陰はらみ
陰の陽はらみ

連続下げ三手 放れ三ツ星



下降相場のなか、下放れて3本の短い陰線が連続すれば、底入れの兆候。上昇への転換を暗示する「買い」のチャンスか。さらに、続けて投資家の迷いを反映するクロス線が出現。さらに翌日、大陽線が張り付いたら、上昇転換の可能性は極めて大きくなる。この日に寄り付いて株価がやや上昇したところが「買い」のよいタイミングだろう。

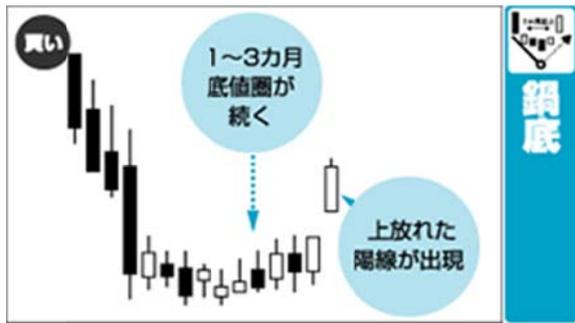
放れ七手の変化底



下降相場中、大きく下放れて下落し、その後は若干のもみ合いが数日続く。その後、高値寄り付きの大陽線が出現する形。大底かどうかの判断はできないが、とりあえず、目先の底は打って、ある程度の上昇は期待できるだろう。まずは上限として、マドを埋めるまで上がる可能性は大きいと思われる。

鍋底

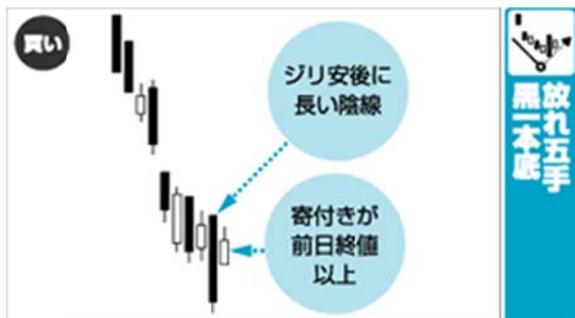
酒田五法 风林火山



相場が長く低迷すると、まるで鍋の底のような形になる。底値圏で何度も往來相場を繰り返すこともあり、下値を切り上げだして相当の期間たった後に、上放れて寄り付いたところが転換サインとなることが多い。底値もみ合いの期間は、1~3ヶ月くらい要するのが通常。V字型の転換が多い中、ゆっくりと上昇転換する独特の形である。

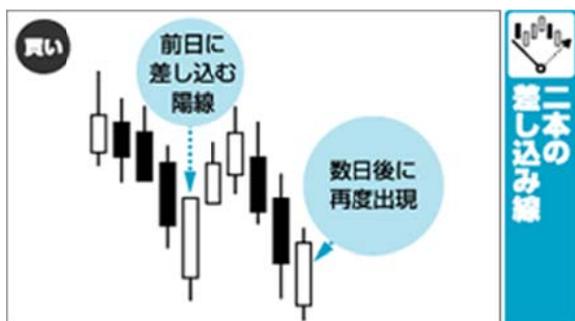
★逆の性質：団子天井

放れ五手 黒一本底



下降相場で、下放れの陰線が出現。放れてからは、陰線と陽線が交互に出て、もみ合いながら相場はさらに下落。しかし、放れてから五手目くらいに、出来高を伴って大陰線が出現すれば、大体の底は打った可能性が高い。翌日が高値で寄り付けば、ここを「買い」への転換点とみるのが得策だと思われる。

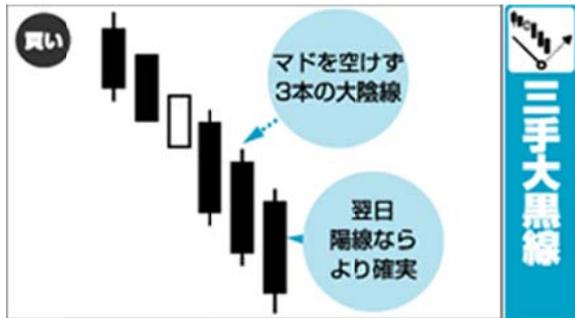
二本の差し込み線



酒田五法 風林火山

下降相場における差し込み線とは、陰線に続いて現れた陽線のこと。前日の終値より下寄りして、前日の実線内で終わる形である。差し込み線は売りのサインとなるが、数日後に再び差し込み線が現れるようなら、利食いもほぼ終わり、買い手の勢力が強くなっていると考えられる。完全な底入れとはいえないかもしれないがある程度の上昇は期待大。

三手大黒線



下降相場で、前日からマドを空けなくて、3本の大陰線が並んだ形。さらに翌日陽線が出るようなら、買い手の反撃が始まったとみることができるだろう。酒田五法では三手連続が転換の節目となることが多い。急騰場面では、逆に3本の陽線が続いたら、そこが一応の限度と心得るべきである。

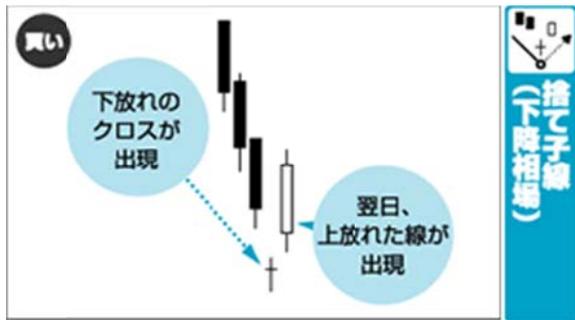
たくり線



下降相場において下放れして、長い下ヒゲを伸ばして引けた陰線。寄り付きから安く、その後大きく突っ込むが、また急反発して大きく盛り返した波乱の形。実体は長い場合もある。長い下ヒゲは、上がろうとする買い方の強いエネルギーの現れであり、深い井戸に落ち込んだものを“たくり”上げる勢力の発生を意味する。

捨て子線（下降相場）

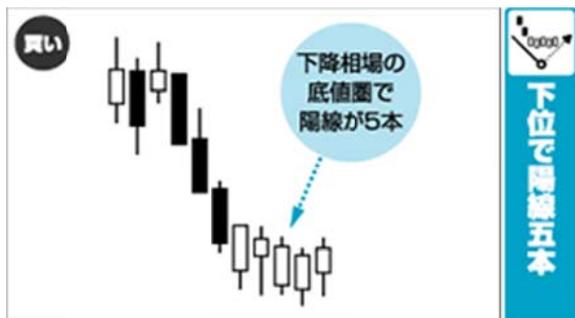
酒田五法 風林火山



下降相場の途中で大陰線、次に下放れたクロスが出現する。翌日上放れた陽線が出たら、買い転換のサインとなることが多い。クロスは売り買いのエネルギーが拮抗しているときに出るローソク足。ここを転換として、買いエネルギーが勝った形がこの形である。クロス翌日下放れすると下降継続となる可能性が高くなる。

★逆の性質：捨て子線（上昇相場）

下位で陽線五本

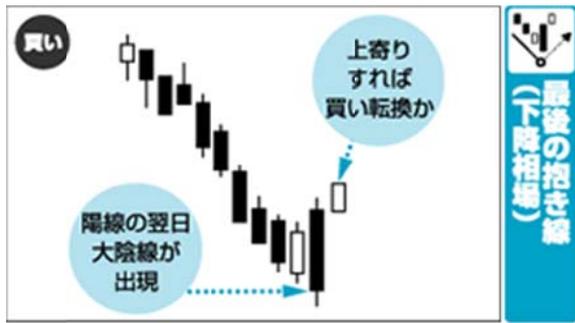


下降相場の底値圏において、陽線が5本続くということは、相場はなんとか上げたがっている証拠となるだろう。なお売り方の勢力は厚いため、値は上げられないが、買い方がじわじわと反撃に転じ出したと考えられる。5回も陽線が続くのが、その証拠といえるだろう。陽線が3本で途切れると下降相場の調整点に終わる可能性も十分あるので注意。

★逆の性質：上位で陰線5本

最後の抱き線（下降相場）

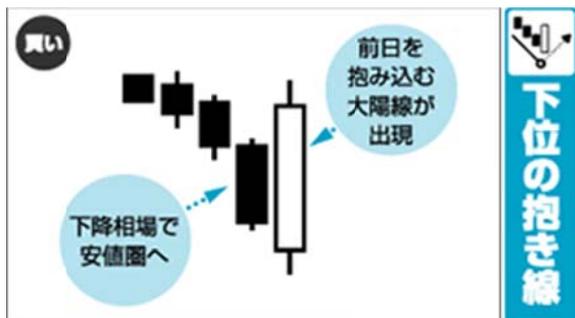
酒田五法 風林火山



下降相場で陽線が出現、翌日に大陰線が出る形。これだけ見ると陽線はダマシだったように見えるが、大陰線で底を打ち、方向転換することも多い。翌日、上寄りすれば、買い転換のポイントとなるだろう。その場合は絶好の仕込みチャンスか。ただし翌日に下寄りするようなら、まだ売り優勢と見て、見送ったほうが無難。

★逆の性質：最後の抱き線（上昇相場）

下位の抱き線



ツツミ足ともいう。下降相場においては、前日の足を包み込む大きな線が出現した形。「上部の“抱き”は天井、下部の“抱き”は底の表示と知れ」とも言われる。安値圏で現れる場合は、図のように前日陰線で、大陽線の抱き線が出現することが多く。底確認の強いサインとなる可能性が高い。前日陽線で翌日大陰線となる場合もある。

★逆の性質：上位の抱き線

下位で陰の陽はらみ

酒田五法 風林火山



下降相場において、大陰線に続いて、その陰線に包み込まれる陽線が出たら、翌日の動きに注意したほうがよいだろう。翌日、上寄りで陽線が現れれば、相場転換の可能性は高くなる。一方、このときに下寄りで陰線で終わるようなら、下降相場は継続の可能性が高い。相場の転換点として、注意しよう。

★逆の性質：上位で陽の陰はらみ

陰の陰はらみ



底値圏で大陰線とはらみ陰線が連続して現れたら、翌日に注目したい。次の日、上放れて陽線となったり、または安寄りでも直前の陰線を包み込む陽線が現れたら、買い局面への転換点となる可能性は高い。

★逆の性質：陽の陽はらみ

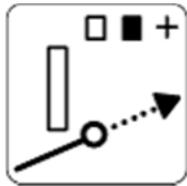
買いサイン 上昇相場での買い時 9パターン

上昇相場での買い時を上手く掴むコツは、上昇トレンドの流れにすばやく乗ることです。すでに相場は上昇していますから、もたもたしては間に合いません。すばやく乗って注意深く相場を見ていきましょう。もし思い描いた展開にならない場合は、乗ったときと同じようにすばやく退却することです。

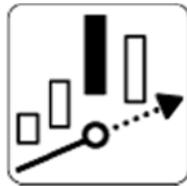
酒田五法 風林火山



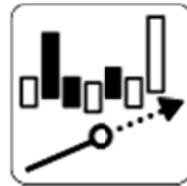
押え込み線



ニツ星・三ツ星
(上昇相場)



差し込み線
(上昇相場)



カブセ線の上
抜き



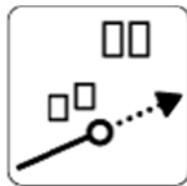
小幅上放れ黒
線



上げ三法



上放れタスキ

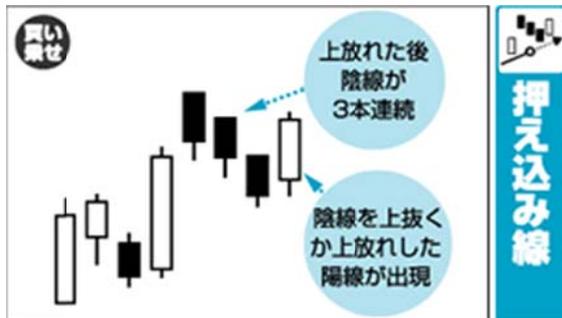


上放れの並び
赤



上値遊び

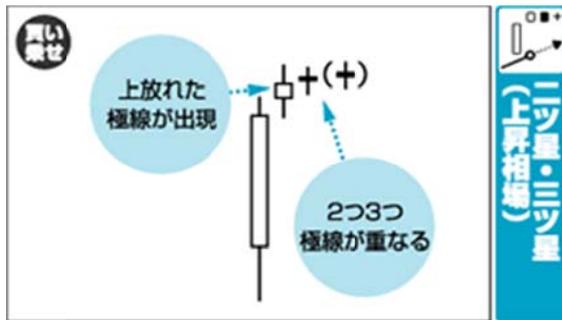
押え込み線



上昇途中の相場で、前日の陽線より高く寄り付き、そこから陰線が3本連続（あるいは、2本と4本の場合もある）する。翌日、陰線を上抜いた陽線が出現したら、押し目買いのチャンス。前日を上抜いたところまで待てば、さらに確実性はますだろう。三羽ガラスとの違いは、1本目の陰線が前日終値より高い位置にあること。

二ツ星・三ツ星（上昇相場）

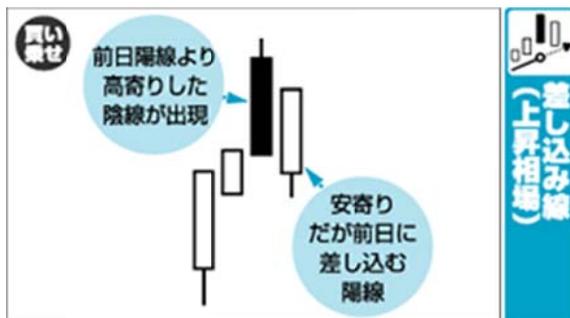
酒田五法 風林火山



上昇相場で急進した後、実体の短いローソク足が仲良く2つ、または3つ固まって横に並んだ形。上昇相場でも下降相場でも流れの分岐点だと言われるが、上伸途中の星出現なら、翌日の動きに期待できる。星の後に、上放れて陽線が出れば、更なる上昇への足がかりに。上昇相場途中で並んだ星を見つけたら、更なる上昇期待大。

★逆の性質：二ツ星・三ツ星（下降相場）

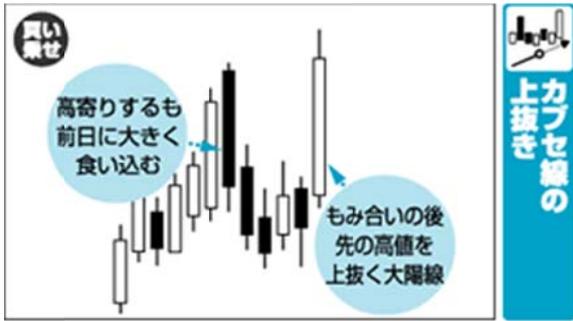
差し込み線（上昇相場）



上昇相場途中のもみ合いで出ることが多い形。上昇後、高寄りしたカブセの陰線が出現。翌日、下放れて寄り付くものの、すぐに上昇して、前日の実線内で引ける陽線。利益確定などで一度落ち着いたものの、すぐに買い方が反撃に出始めた可能性が高い。叩かれて、反発するゴムマリのような線と言えるだろう。買いチャンスか。

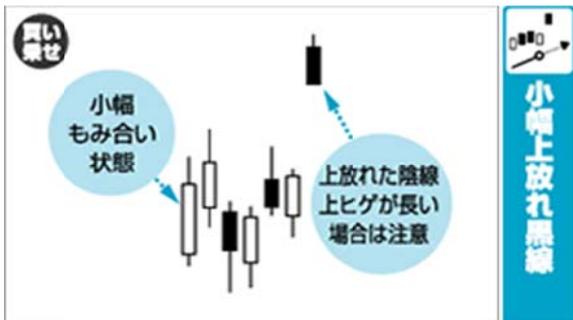
カブセ線の上抜き

酒田五法 風林火山



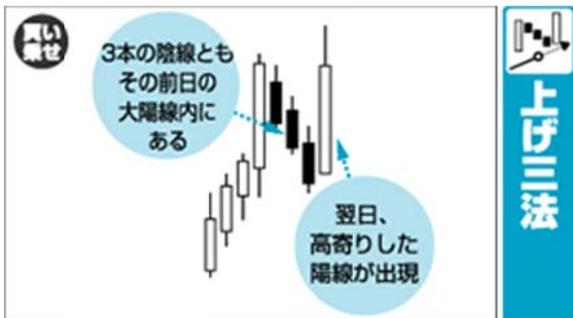
カブセ線とは、長い陽線を出した翌日、前の陽線よりも高く寄り付いたものの、その後反落して陽線に食い込んで大引けした陰線のこと。その後案外しぶとく高値でもみ合いを続けるが、さらに先の高値を更新する強力な陽線が出ることもある。珍しいパターンだが、もし出現すれば買い乘せに絶好の場となる可能性大。

小幅上放れ黒線



ごく目先の利益狙いが暗示される形。相場が安い水準で小幅のもみ合いをしている状況から、上放れして陰線が出現する。陰線にはなったものの、一応相場が眼を覚ました状態で「以後六日間の上伸すべし」という。また出現した陰線の上ヒゲが長いようだと、あまり上昇は期待できないかもしれないので要注意。

上げ三法

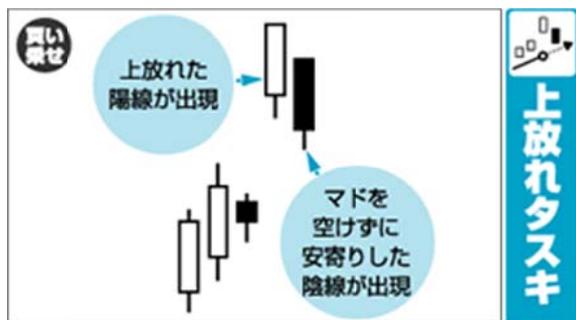


酒田五法 風林火山

三法とは「売り・買い・休み」の意。休みが売り・買いと同様に重要であることは、酒田五法の基本でも述べた通り。ここで取り上げる「上げ三法」も上昇相場の一時的な休みを示すもの。大陽線に続いてその陽線に包み込まれるような陰線が3本続くところが一時的な休み。翌日、高寄りで大陽線出現となれば、買いの好機となろう。

★逆の性質：下げ三法

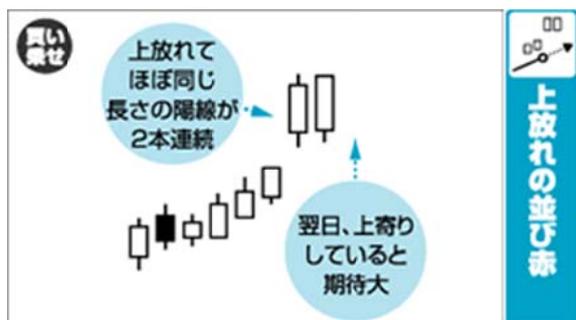
上放れタスキ



上昇相場の途中、上放れた陽線が現れ、翌日は陽線内から寄り付き陰線で終わる形。上放れた後、相場とは反対方向にタスキをかけるように見えることから、この名前がついている。陰線が出現したのは、一時の休憩状態でしかなく、この形が出ると、上昇に向かって加速する可能性が高くなる。

★逆の性質：下放れタスキ

上放れの並び赤

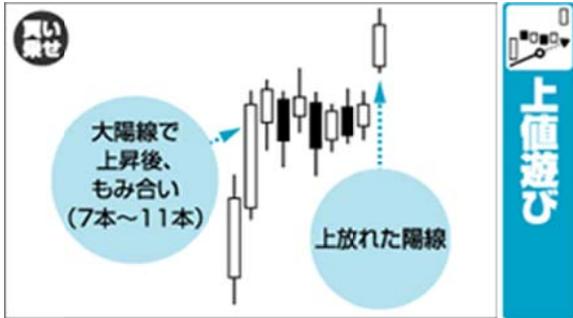


上昇相場でジリ高の局面からパッと上放れて、ほぼ同等の長さの陽線が2本仲良く並んだのがこの形。さらに翌日、上寄りすれば、大上げの前兆とされる。そう簡単に見られる形ではないが、出たら大注目となろう。

★逆の性質：下放れの並び赤

酒田五法 風林火山

上値遊び

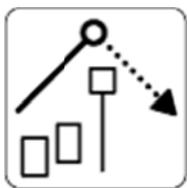


強力な大陽線の出現で相場が上伸した後、小幅な高値もみが続くこと。急騰した相場に対して、利食い売りや空売り、また、勢いに着く新規買いや事情通の買い乗せもじっくり入っているケースであろう。ここで買うのは早すぎで、もみ合いから上放れたところが買いのチャンス。遊びの期間は7~11本くらいとされる。

★逆の性質：下値遊び

売りサイン 天井での売り時 13パターン

上昇トレンドが続いていれば、心情としてはついつい買い増しをしたくなるもの。しかし、永遠に上がり続ける相場というものは存在しません。皆が熱狂している時ほど、冷静になって相場を判断するのが酒田五法です。上昇相場が長く続いたら売り転換のサインの出現に注視しましょう。



首吊り線



三羽鳥



ツタイの打ち返し



団子天井



三手放れ寄せ線



下げ足のカブ



波高い線



捨て子線



上位で陰線五



最後の抱き線

酒田五法 風林火山

セ

(上昇相場)

本

(上昇相場)



上位の抱き線

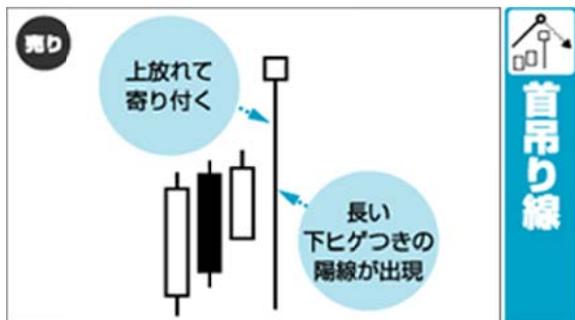


上位で
陽の陰はら
み



陽の陽はらみ

首吊り線



高値波乱の形。まずは上放れて寄り付くが、買い方の成り行き利食い売りが殺到して、大いに下押しする。今度は押し目待ちの買いが一斉に入って、上伸、高値引けで終わる。下ヒゲは実線の3倍以上あるものを原則とする。いかにも上昇エネルギーを残すように見えるものの、ここで買うのは“首吊り”ものとなろう。

三羽ガラス

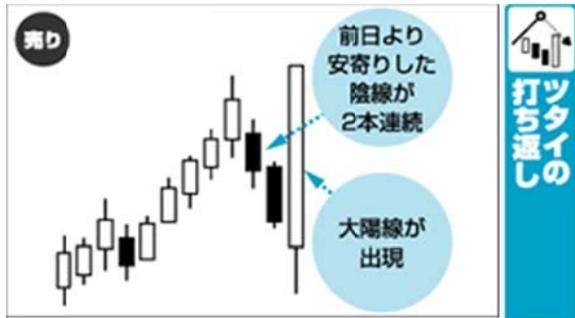


1カ月以上も上昇相場が続いた後、前の引け値より下回った位置から陰線が3本続けて出現したら「売り」気配が強まったと言えるだろう。下げ始めたら1ヶ月は下降が続く可能性が高くなる。ただし、最初の陰線が上放れた位置から

酒田五法 風林火山

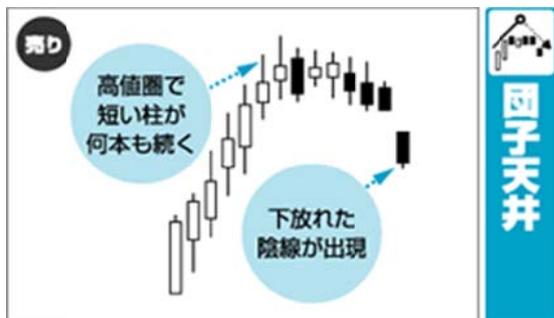
くるものは「押さえ込み線」となって、買いのチャンスとなる。見間違いに注意しよう。

ツタイの打ち返し



上昇相場の途中で、前日より下回った位置に出現する連続陰線をツタイ線という。このツタイ線出現後、3本目にいきなり強力な陽線が出現し、一挙に新高値をつけることがある。これを「打ち返し」という。強気筋はこの強力陽線を見て「してやったり」と意気込むところだろうが、これは天井確認線となることが多い。ここは売りが賢明だろう。

団子天井

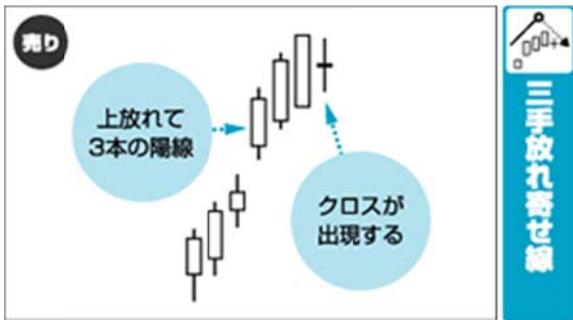


名前のごとく、波乱もなく穏やかに半円の天井を描く形。高値もみのように見えるから、これは中段もみ？ もう一度上に放れるか？ と思っていると逆に下放れて天井確認となってしまふ。下放れだけでなく、カブセ線にも注意しておきたい。

★逆の性質：鍋底

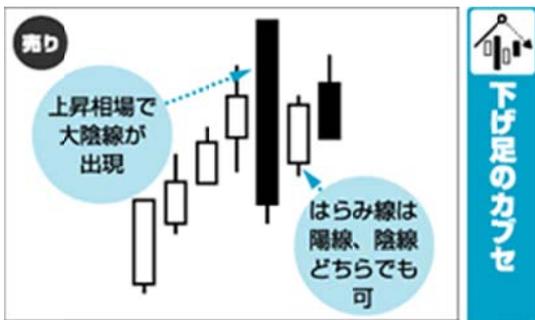
三手放れ寄せ線

酒田五法 風林火山



上昇相場で上放れた後、3本の新値を付け、次の日クロスが現れた形をいう。マドを空けた後も新値更新をしていることから、上昇エネルギーは一気に発散されており、クロスで極限状態に達したということであろう。クロス翌日安寄りするようなら、即座に売りに転換となる可能性が極めて大きい。

下げ足のカブセ



上昇相場で、直前の陽線を包み込む大引け坊主（売りのローソク足参照）が出現。これだけでも天井を表示しているのだが、翌日さらに前の陰線に包まれるような、はらみ線が出現。さらに翌日カブセの陰線が出現する。天井での確認が3回連続で現れた形。売りの転換可能性は高い。真ん中のはらみ線は陰陽問わずとある。

波高い線

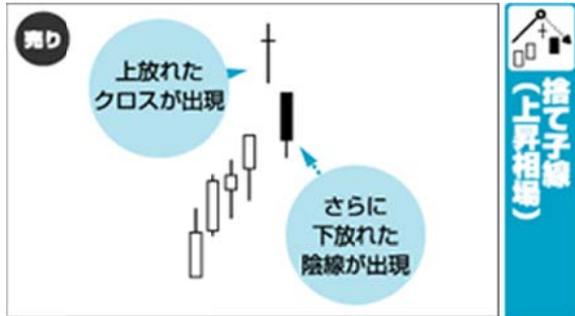


“波高い”とは波乱相場のこと。上昇相場において、寄り付きから大いに上伸するものの、その後急反落してそこそこに引け、上下のヒゲが長く実体は短

酒田五法 風林火山

くなる。買いと売りの勢力が拮抗して、お互いに疲れて終わった形だろう。その翌日はらみ線となったら、その翌日に注目。下放れたら相場転換。逆に上放れれば、再び上昇に向かうことも。

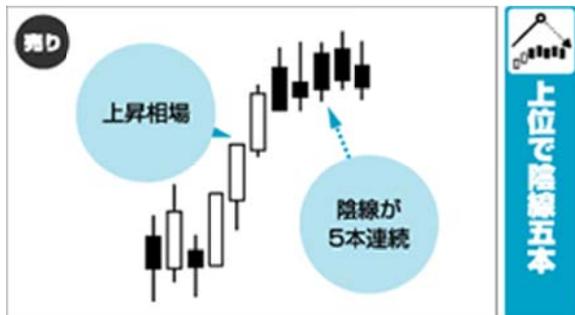
捨て子線（上昇相場）



相場が相当に上伸している高値圏で、上にマドを空けてクロスが出現し、さらに翌日下にマドを空けて陰線が出現した形。これは、いわば上昇エネルギーが最後に燃え尽きたようなもの。売りへの典型的な転換のサインとなるだろう。大暴落の前兆でもあるので要注意である。

★逆の性質：捨て子線（下降相場）

上位で陰線五本

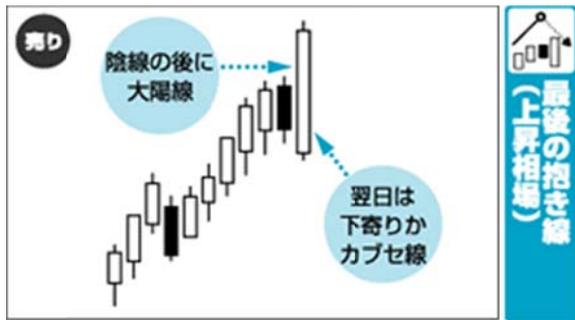


上昇相場の天井付近において、陰線が5本続くということは、売り方の勢力が徐々に強くなっている証拠。最後には買い方が総投げとなる可能性もある。この形も珍しい形だが、天井で陰線が続くようなら退却準備を始めたほうがよいだろう。

★逆の性質：下位で陽線五本

最後の抱き線（上昇相場）

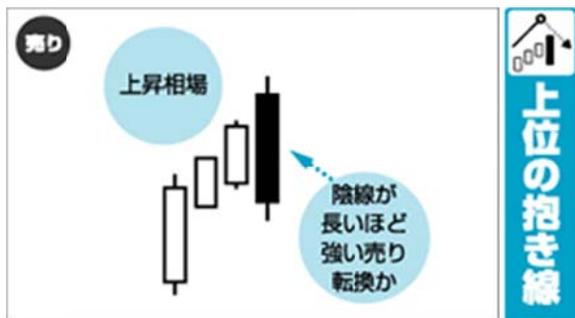
酒田五法 風林火山



上昇相場において陽線の次に大陰線が出現するのが、抱き線の普通の形。しかしこの場合は、先に陰線が出て、それを包む形の大陽線が出現する。これは通常の抱き線より強力な相場の転換点とされる。翌日大陰線より下寄りで始まるようなら、即刻退却が賢明か。上についてもカブセの陰線で終わるようなら要注意だ。

★逆の性質：最後の抱き線（下降相場）

上位の抱き線

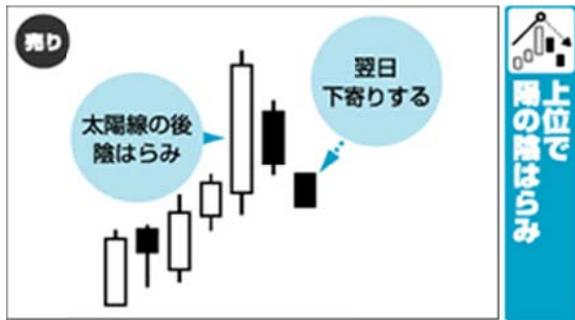


上昇相場において、前日の陽線を完全に包み込む大陰線が出たらここは素直に相場転換のサインとみるのが無難。売り方のエネルギーがかなり強まっていることは確かなので、手遅れにならないように要注意だ。

★逆の性質：下位の抱き線

上位で陽の陰はらみ

酒田五法 風林火山



上昇相場中の大陽線に続いて、その陽線に包み込まれる陰線が出たら、翌日には注意が必要だ。ここで下寄りなら売りの転換点となろう。しかし上寄りで陽線で引けるようなら上昇の可能性もある。じっくりて行方を見定めてかかるべきだろう。

★逆の性質：下位で陰の陽はらみ。

陽の陽はらみ



上昇相場で大陽線が出現、翌日は前日の陽線に包み込まれた陽線が出現する。陽線で終わったものの、上値も抜けず、買いの勢いがなくなっている証拠となろう。さらに翌日、カブセ線やクロスが出現したら、相場転換の可能性は高い。

★逆の性質：陰の陰はらみ

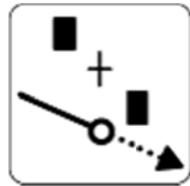
売りサイン 下降相場での売りサイン パターン

下降相場中は弱気になると同時に、買い時を必死に探し出す場所でもありません。人より早く底値を掴もうとあせるあまり、まだ下降相場途中にある段階で、買い判断をしてしまうと大変です。ここでは、下降相場途中にある売り時（下降継続）のサインを見ていきましょう。

酒田五法 風林火山



下流れ二本黒



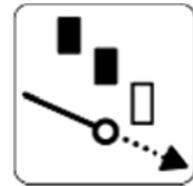
捨て子線
(下降相場)



バケ線



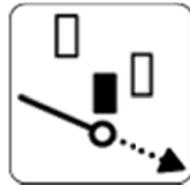
二ツ星・三ツ星
(下降相場)



入り首・アテ線



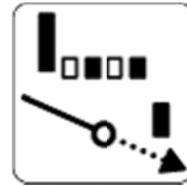
下げ三法



下流れタスキ

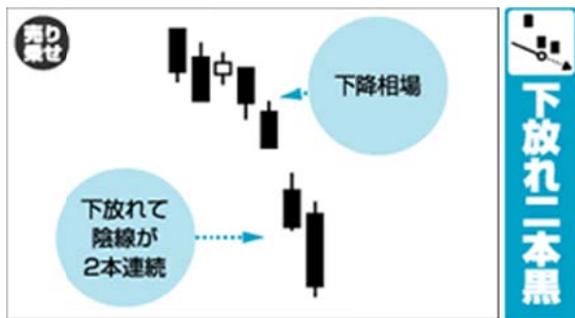


下流れの並び
赤



下値遊び

下流れ二本黒



下落途上で、マドを空けて陰線、さらに翌日も連続陰線。本来であれば下放れたら底打ちで小さく反発するものだが、連続して二本陰線が続くようであれば買い方総崩れ、底が抜けてしまうことも。大崩落の兆しとして、この形が出たら、すばやく撤退するのが得策だろう。

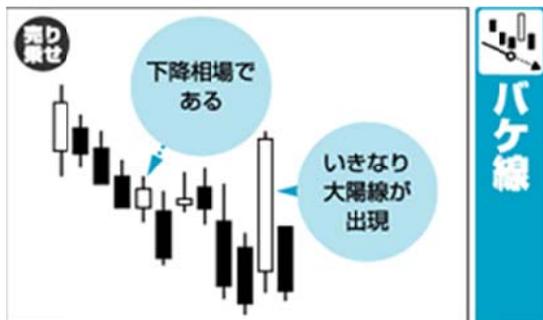
捨て子線 (下降相場)

酒田五法 風林火山



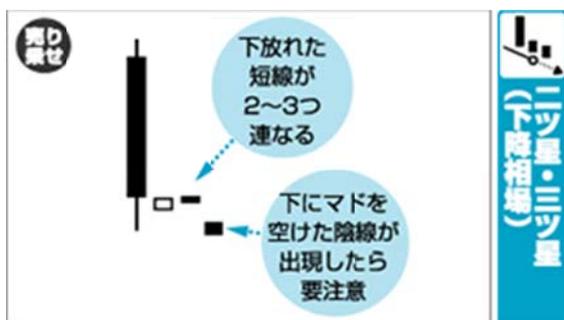
捨て子線は、相場の転換点として頻繁に出てくる。下降相場において、下放れたクロスの後、再び下放れて下降するようなら、追撃売りの場となろう。一瞬躊躇してから勢いよく下落する形で暴落の可能性もあるので、このサインには気をつけたい。

バケ線



バケ線とは、上昇相場で出現する大陰線、下降相場で出現する大陽線のこと。どちらも突然相場に逆らって現れた強力な陰線・陽線である。下降相場でバケ線が現れれば、否応なしに上昇を期待するところだが、不確かな情報などによる場合も多く、安易な判断は危険。上げ相場ならば「買い」、下げ相場ならば「売り」が賢明だろう。

二ツ星・三ツ星 (下降相場)



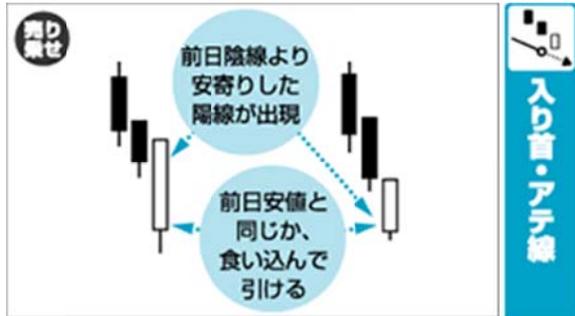
ヒゲも実体も短いローソク足（星・極線）が仲良く2つまたは3つ固まって横に並んだ形。上昇相場でも下降相場でも分岐点だと言われる。下降相場途中

酒田五法 風林火山

で出現後、更に下放れるようなら、下降継続となろう。

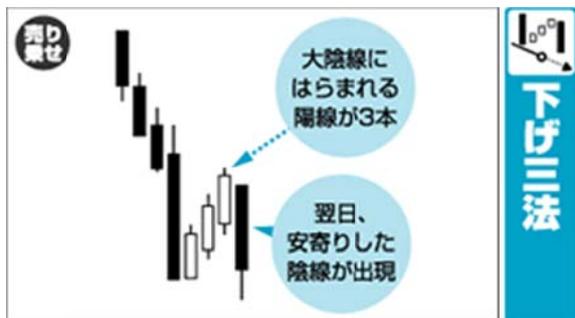
★逆の性質：二ツ星・三ツ星（上昇相場）

入り首・アテ線



下降相場で前日の引け値より安く寄り付き、前の柱内まで戻して引けた陽線を入り首という。またこの陽線が前の安値までしか戻らない場合はアテ線と呼ぶ。ともに変化の激しい相場に現れやすい。さらにこの線を下回ったところで、売りの体勢に入る。

下げ三法

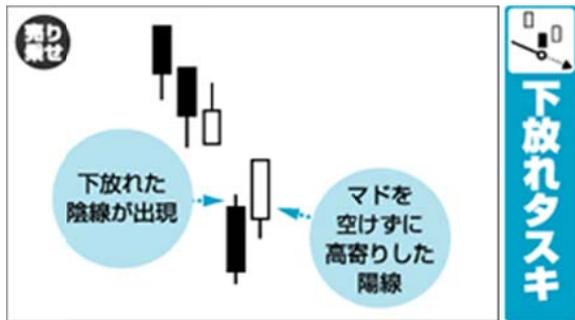


下降相場において、大陰線が出て、いよいよ投げ切ったかと思わせ、翌日からは陽線が3本連続するものの、この3本でも先の大陰線を抜くことができず、はらんで終わるようだ、底入れの段階には達していないと考えられる。この後、安寄りで陰線となるようなら下降相場が続くと考えられる。

★逆の性質：上げ三法

下放れタスキ

酒田五法 風林火山



タスキとは、下げ相場なら陰線の後にマドを空けずに高く寄り付いた陽線が出ること。上げ相場なら、陽線に続いて安く寄り付いた陰線が出ること。陽線の出現で底入れと考えるのは早計。特に下放れた後のタスキは大暴落の前兆とされる。手仕舞い、または追撃売りのチャンスとなろう。

★逆の性質：上放れタスキ

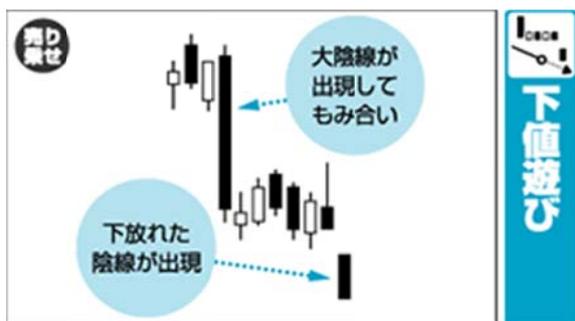
下放れの並び赤



シリ安相場から、下にマドを空けてほぼ同じ長さの陽線が並んだ状態。陽線が続いたことで上昇への転換も予測されるが、ここは追撃売りとされる。めったに出ない珍しい足で、江戸時代の米相場独特の足であることも考えられる。

★逆の性質：上放れの並び赤

下値遊び



酒田五法 風林火山

下値遊びとは、急激に株価が下落した後にもみ合いとなる形。底値を形成かとも思われるが、下降相場の中段もみに過ぎないことも多い。もみ合いの後、下にマドを空けて陰線が出現したら大暴落の始まりとされる。とりあえずもみ合いになったら様子を見るのが正解となろう。

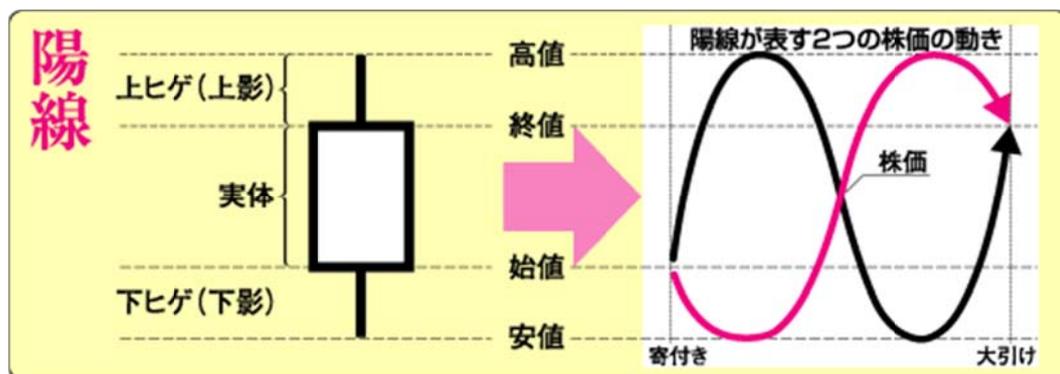
★逆の性質：上値遊び

ローソク足の基本

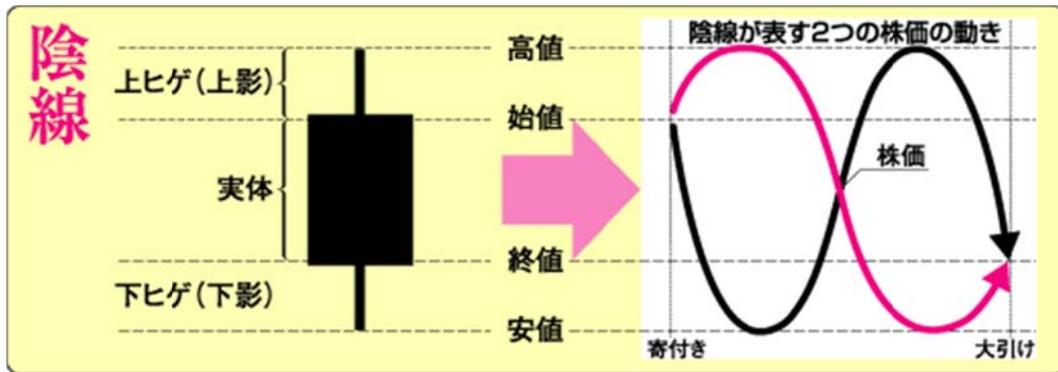
陰線陽線

ローソク足は、始値（最初についた株価）、安値（一番安い株価）、高値（一番高い株価）、終値（最後についた株価）の4つの株価から成り立っている。始値より終値が高ければ、実体が白い「陽線」、始値より終値が安ければ、実体が黒い「陰線」となる。

ただし単純に、陽線＝上がる、陰線＝下がる、ということではない。同じローソク足でも、安値の後に高値をつける場合と、高値の後に安値をつける場合があり、株価の動きは異なる。陽線、陰線ともいくつかの種類があり、相場状況に応じて、同じローソク足でも意味合いが変わってくる。



酒田五法 風林火山



買いのローソク足

非常に強い上昇暗示		陽の丸坊主 ひげのない大陽線。一直線に伸びており、翌日も上昇が期待できる。
かなり強い上昇暗示		大陽線 実体は時価の1割程度の値上がり。買い意欲が強いことを示す。

強い上昇暗示		下影陽線 下ヒゲが実体と上ヒゲと合わせ、たものより長い陽線。上昇期待。
かなり強い上昇暗示		陽の大引け坊主 一度下げたが、引けには大幅上昇。翌日も上昇が期待ができる。

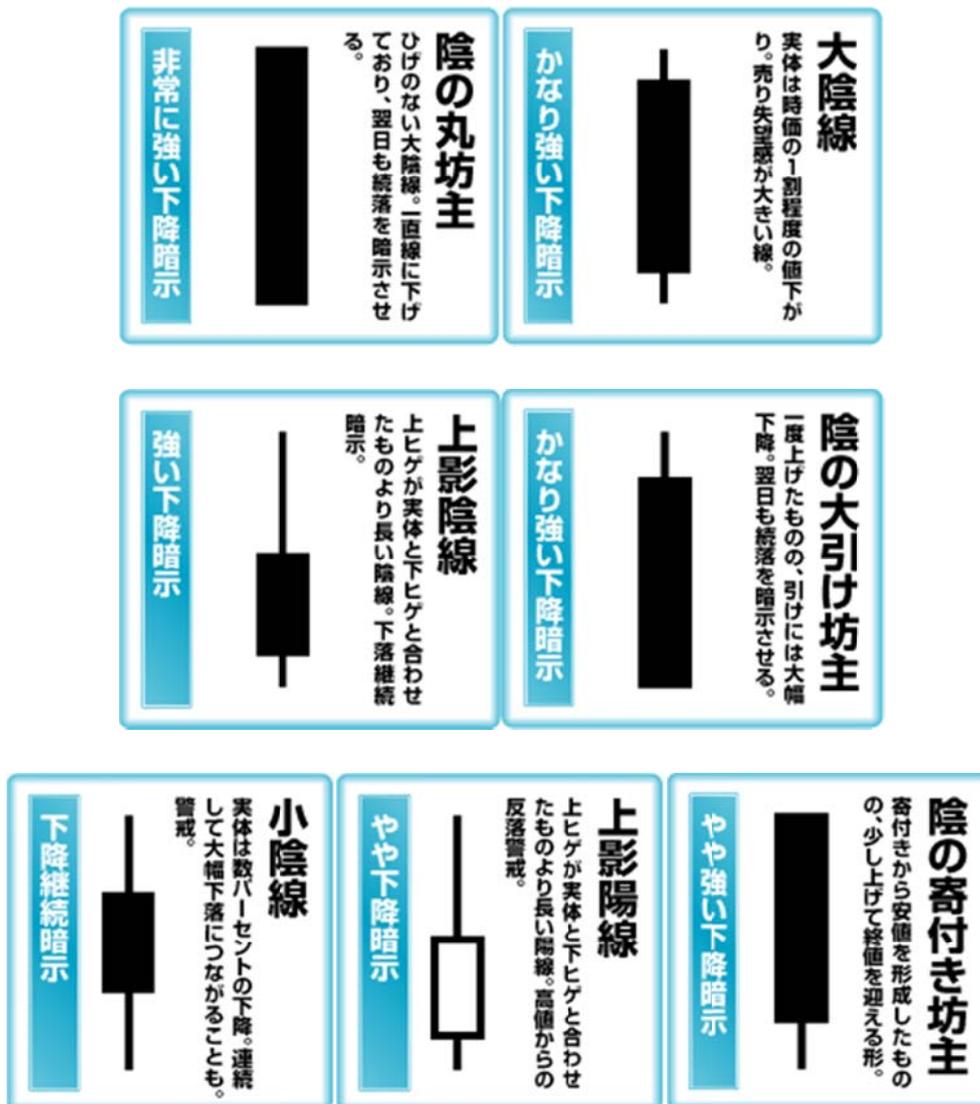
上昇継続暗示		小陽線 実体は数パーセントの上昇。連続してさらに大陽線へつながる期待感あり。
やや強い上昇暗示		下影陰線 下ヒゲが実体と上ヒゲと合わせ、たものより長い陰線。安値からの反発期待。
やや強い上昇暗示		陽の寄付き坊主 寄付きから高値を形成したものの、少し下げて終値を迎える形。

酒田五法 風林火山

迷いのローソク足



売りのローソク足



酒田五法 風林火山

轉換のローソク足



狸山ポン法

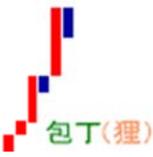
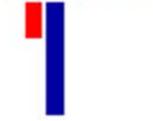
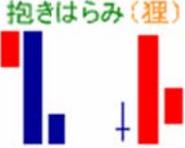
ポン線は万能ではない。しかし、栄枯盛衰の歴史を振り返れば狸心理の不変性、共通性がわかるように、狸相場の世界でも投資家心理の経験的な「法則性」が認められるのも事実。その投資家心理の急所をズバリ表現しているのが狸山ポン法である。

狸山ポン法の精神とするものは「食う、練る、遊ぶ」の三法にあり、出勤、手仕舞いに際しては敏なることと教えている。（ぽんぽこ新聞社「狸山ポン法は弱肉強食より」）

（狸山ポン法は酒田五法を参考にして狸なりに知恵を絞り、これまでの相場の流れや今後の予想等を示したものです。内容の責任については狸なので一切負いません。）

狸山ポン線	ここの足型はたぬき山ポン一郎氏が発見したもので、足型の名前は独自に命名したものです。
はらみ五匹 (狸)	<p>買い</p> <p>下落相場において、大陽線、又は大陰線に比較的短い極線などを5回はらんだ場合、一応底と見て、翌日陽線を確認しつつ積極的に買い。</p> <p>左図は、IRI 総合研究所 (4741) の日足、2005年2月17日～、右図は週足の2004年2月20日出ている。いずれもその後上げ相場となっている。しかし上位のはらみ五匹は天井の可能性があり危険である。</p>

酒田五法 風林火山

	<p>尚、はらみ過ぎは要注意。オンコセラピー（4564）では2005年8月18日に大陽線を9月21日まで23匹もはらみ、その後下放れている。これを「貧乏狸の子沢山」という。</p>
 <p>包丁(狸)</p>	<p>買い、ホールド</p> <p>IRI 総合研究所（4741）の日足で2005年4月1日の上場相場に出た足。大陽線の次の日、続けて上がると思わせて、翌日は陰線引けとなるが、前日の陽線の半分も下回らない。相場の一時的な休みとして、翌日の様子を伺いつつ、買いもしくはホールド。陽線を出した翌日、先日の終値ちょうどから寄り付き、カブセともならないことがポイント。</p> <p>オンコセラピー（4564）では2005年3月9日に下降相場ながら包丁になっている。はらみ線でもあり転換点ともなる。その後2万円ながら盛り返した。</p> <p>イーアクセス（9427）の週足2004年2月27日にも上昇途中で完全な包丁ではないが出ている。その翌週は陰線となったがその翌週陽線をはらみ、再び上昇に転じた。</p> <p>インフォコム（4348）の週足2003年9月12日にも出ている。このときはその後1ヶ月あまりで16万円くらいから45万円くらいまで約30万円もの大幅な上昇を見せた。</p>
 <p>歯ブラシ(狸)</p>	<p>売り</p> <p>陽線の翌日、前日の高値ちょうどから寄り付き、大陰線となるもの。一種の抱き線であるので上位に出た場合は要注意。</p> <p>2005年10月14日にイーアクセス（9427）の週足に出ている。</p> <p>2004年1月30日にインフォコム（4348）の週足に出た。このときは陽線を大陰線で抱く形となり、大幅に下げた。</p> <p>2005年7月15日にW&G(4821)の日足に出た。その後も下落基調は続いた。</p>
 <p>抱きはらみ(狸)</p>	<p>売り、買い</p> <p>相場上位でこの抱きはらみがでると天井とみる。左は2005年3月24日に日足のオンコセラピー（4564）に出た抱きはらみ。しかもよく見ると「歯ブラシ」となっている。その数日後下放れて5万円ほど落ちた。</p> <p>右は2005年10月12日に日足のプレステージ（4290）に出た下位の抱きはらみで、これは底確認となり、買いとなる。そのほか</p>

酒田五法 風林火山

	にもいろいろな形があるが、一つの転換点と見てよいだろう。
	暴騰する銘柄の直前の足型、チャートに注目してみよう
2005. 6. 8 ~7. 4	<p>ソフトフロント (2321)</p> <p>2005年の2月ごろからほとんど波もなく6月8日(7万1000円)ごろまで、退屈なチャートをしていた。短線が多かったようだ。しかし、6月9日にととう動き出し、あれよあれよという間に、7月4日26万4000円の高値をつけた。1ヶ月で約3.7倍である。</p> <p>チャート</p> <p>蛇足が長ければ長いほど、大相場がくるということか……。暴騰前の2年間の低迷時に持ち続けたが、数ヶ月前に手放した株でもあり、非常に悔しい思いをした銘柄である。</p>
2005. 8. 25~9. 28	<p>ネクストコム (2665)</p> <p>この銘柄も2005年の7月から8月25日までほとんど波もなく退屈なチャートをしていた。これも短線が多かった。しかし8月25日から9月28日までの約1ヶ月間で49万6000円から73万円まで上昇した(分割前の値段)。23万4千円のUPである。</p> <p>チャート</p> <p>暴騰の前兆は8月18日にあったといえる。</p>
	(備考)
	<p>ドリームテクノロジー (4840)</p> <p>平成電電が筆頭株主のドリームテクノロジー(4840)は9月30日に4万7200円の株価だったのが、11日連続ストップ安で1万2200円まで急落。その翌日寄り付き、即ストップ高。その翌日もストップ高の1万6200円をつけるものの1万3200円まで反落。チャート</p>
	<p>下落から上昇に向かう際、日足は基準線に注意すべし。一度は跳ね返される可能性あり。</p> <p>週足は転換線に注意すべし。</p>

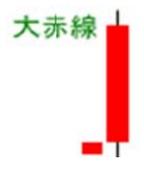
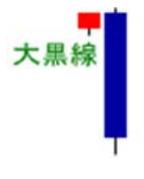
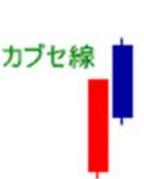
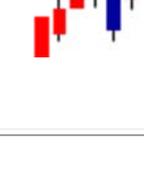
酒田五法と狸山ポン法

酒田五法 風林火山

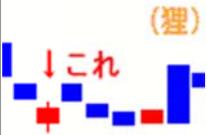
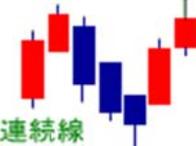
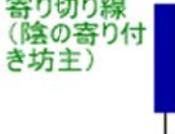
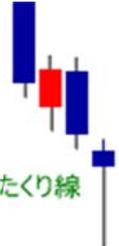
罫線（ケイセン）は万能ではない。しかし、栄枯盛衰の歴史を振り返れば人間心理の不変性、共通性がわかるように、相場の世界でも投資家心理の経験的な「法則性」が認められるのも事実。その投資家心理の急所をズバリ表現しているのが酒田五法である。

酒田五法の精神とするものは「売る、買う、休む」の三法にあり、出動一手仕舞いに際しては敏なることと教えている。（日本証券新聞社「酒田五法は風林火山」）

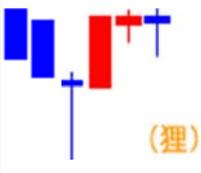
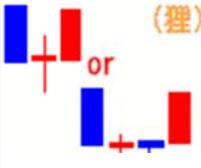
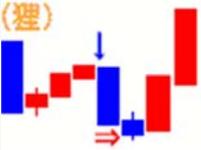
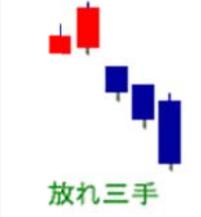
尚、図に（狸）とあるものは、狸山ポン法の「狸山ポン線」です。

	<p>大赤線</p> <p>高値引けの陽線で、前日の値幅の3倍以上とされる。</p>
	<p>大黒線</p> <p>安値引けの陰線の長いもの</p>
	<p>カブセ線</p> <p>売り</p> <p>前日に長い陽線を出した翌日、上放たれて高寄りし、その後反落して前日の陽の中に食い込み陰線となって大引けした足</p> <p>相場が相当上伸したころに出現すれば”ドテン売り越し”を敢行する急所</p>
	<p>下げ足のカブセ</p> <p>売り</p> <p>高値圏で大黒線の抱き線（ツツミ足）を出しただけでも天井暗示となるが、翌身を縮めた形で小さいはらみ足となり、さらにこれにカブセ足が出ると売り決線の大天井表示。真ん中のはらみ足は、陰陽いずれでもよい。この足は売り3続線の超強力な売りシグナルである。</p>
	<p>寄せ線</p> <p>売り、買い</p> <p>寄り付きと同値で引けて十字になる線。ヒゲが比較的短いときは、トンボ、長</p>

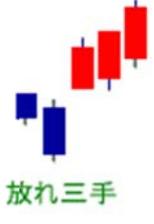
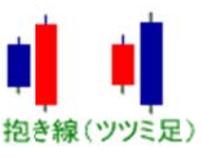
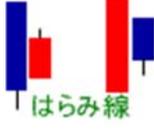
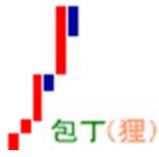
酒田五法 風林火山

	<p>のは足長、上にだけヒゲがあるのはトウバという。上下に短いヒゲがでるとコ といって、一般に気迷い線ともされる。 「天底の暗示」 勢力拮抗したところでしばしば出現する。</p>
 <p>極線 (星)</p>	<p>極線 極短い線で、別名はホシ。陰でも陽でもよいが、「二ツ星」「三ツ星」は重要 上申途上に出現すれば上放れの前兆、下落途上なら下放れの前兆。</p>
 <p>ピエロ (狸)</p>	<p>ピエロ 買い 「極線の陰線、下放れて陽線、上放れて陽線」でた時をいう。 2007年9月5～7日 4304 イーアクセス 極線、寄せ線などの短線を出しながら蛇足のよう徐々に下がっていく中で、 エロを確認。その後も極線を出し、「陰の陰はらみ」を出した後、大暴騰した</p>
 <p>連続線</p>	<p>連続線 前日の値幅の中で寄り付くこと。前後の陰陽はどちらでもよい。上昇相場、下 相場ともに、この形が続くことは穏健な動きとみられる。但し、この3手と5 さらに8手10手は重要となる。</p>
 <p>寄り切り線 (陽の寄り付 き坊主)</p>	<p>寄り切り線 (陽の寄り付き坊主) 買い 陽線で寄り付きが安値で、下にザラ場の安値がない線。上値暗示のかなり強い とされる。安値で”陽の寄り付き坊主”が出れば「買い転換の決定戦」</p>
 <p>寄り切り線 (陰の寄り付 き坊主)</p>	<p>寄り切り線 (陰の寄り付き坊主) 売り 陰線で寄り付きを高値として、そのまま下値波乱になって引ける線。下値暗示の 強い線とされる。 高値で”陰の寄り付き坊主”が出れば「売りの決定線」</p>
 <p>たくり線</p>	<p>たくり線 買い 寄り付きから安く、大きく突っ込むが、また急反発して引けた波乱の足。下ヒゲ 長い陰線。実体が長いものもある。一ヶ月くらい下げたところに出るのが本物 される。長い下ヒゲはなんとか上昇相場に上がろうとする買い方の強いエネル ーの現われ。</p>

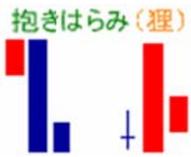
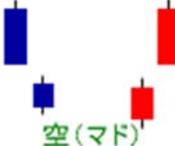
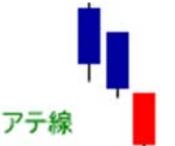
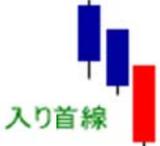
酒田五法 風林火山

	<p>たくり線、見逃すな！！</p> <p>買い 狸談)</p> <p>下げ相場から、たくり線が出て、信じられない場合には、翌日陽線が出たらいい。もし、迷い線がでたら陽線が出るのを待って買い！注意は、たくり線の後線が出た場合は様子見！（NYダウ、ナスダック2007年8月中旬参考）</p>
	<p>見逃すな！！</p> <p>買い 狸談)</p> <p>たくり線は出なくても、下位で、長めの陰線の後に極線、その後図のよな長めの陽線が出たら買い出動！かなり強烈な足型と見る。</p>
	<p>見逃すな！</p> <p>買い</p> <p>下げ三法だったのに暴騰した例</p> <p>左図では強烈な売り線である「下げ三法」が出たが、材料を足がかりに暴騰した例である。</p> <p>下げ三法では</p> <p>下落途上に大陰線が出て陽線3本が連続するが、陽線の三手をもってしても、の大黒線を抜けずに、大黒線に陽線3本がはらみの形となる。これは底入れてなく単なるアヤ戻りである。</p> <p>陽線3本の翌日に安寄りの陰線となるとのみで追撃売り。大崩落の第一歩である・・・と酒田五法で言っている。しかしこの場合なぜ逆に暴騰したのかを考えると、青↓の長めの陰線の後の型が影響を与えていると見る。長めの陰線の後に極線、その後長めの陽線が出ている。これは強烈な「買い」のサインである。ちなみに材料は長めの陽線の時点では出ておらず、次の陽線が出たのである。</p> <p>又、材料は、がんワクチン開発だった。（直前に新株予約権発行のIRも出しているが、この時には株価はまだ暴騰していない）（2007年10月2日 464 オンコセラピー週足）</p>
	<p>放れ三手</p> <p>買い</p> <p>前日までの動きと急に方向を変え、放れて寄り付き、同じ方向に連続線三本がぶときをいう</p>

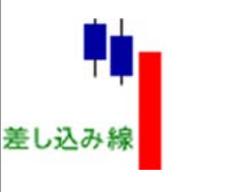
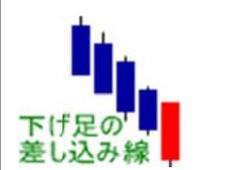
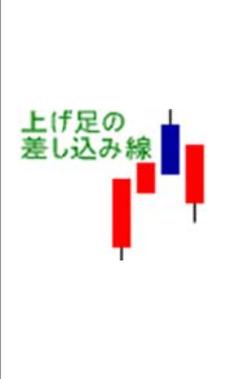
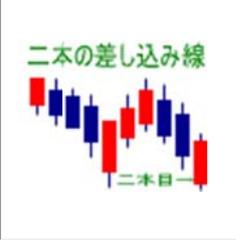
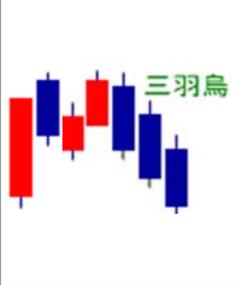
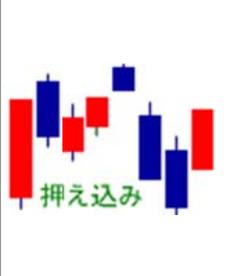
酒田五法 風林火山

 <p>放れ三手</p>	<p>放れ三手 売り 前日までの動きと急に方向を変え、放れて寄り付き、同じ方向に連続線三本がぶときをいう。 「放れ三手の新値は利食い」</p>
 <p>抱き線(ツツミ足)</p>	<p>抱き線 (ツツミ線) 売り、買い 前日の値幅を包む大黒線、また大陽線。上部の抱き線は天井、下部の抱き線は底の表示</p>
 <p>はらみ線</p>	<p>はらみ線 前日の値幅以内でより引けした足。変化の前提なりとされる。</p>
 <p>はらみ五匹(狸)</p>	<p>買い 下落相場において、大陽線、又は大陰線に比較的短い極線などを5回はらんだ場合、一応底と見て、翌日陽線を確認しつつ積極的に買い。 左図は、IRI 総合研究所 (4741) の日足、2005年2月17日～、右図は週足の2005年2月20日出ている。いずれもその後上げ相場となっている。しかし上位の値はらみ五匹は天井の可能性があり危険である。 尚、はらみ過ぎは要注意。オンコセラピー (4564) では2005年8月18日に大陽線を出した翌日、先日の終値ちょうどから寄り付き、カブセとなり、その後下放れている。これを「貧乏狸の子山」という。 尚、はらみ22匹から急騰した例もあるので、大転換線とみるとする説もある (2007年9月11日 4797 オープン参考)</p>
 <p>包丁(狸)</p>	<p>買い、ホールド IRI 総合研究所 (4741) の日足で2005年4月1日の上場相場に出た足。大陽線を出した翌日、続けて上がると思わせて、翌日は陰線引けとなるが、前日の陽線の半も下回らない。相場の一時的な休みとして、翌日の様子を伺いつつ、買いもしないでホールド。陽線を出した翌日、先日の終値ちょうどから寄り付き、カブセとなり、その後下放れている。これを「貧乏狸の子山」という。 オンコセラピー (4564) では2005年3月9日に下降相場ながら包丁になっている。はらみ線でもあり転換点ともなる。その後2万円ながら盛り返した。 イーアクセス (9427) の週足2004年2月27日にも上昇途中に完全な包丁ではなかったが、翌週は陰線となったがその翌週陽線をはらみ、再び上昇に転じた。</p>

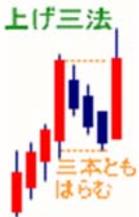
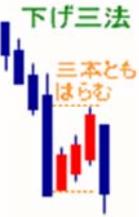
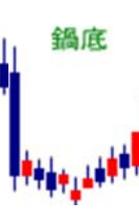
酒田五法 風林火山

	<p>インフォコム (4348) の週足 2003 年 9 月 12 日にも出ている。このときはそのヶ月あまりで 16 万円くらいから 45 万円くらいまで約 30 万円もの大幅な上昇させた。</p>
	<p>売り 陽線の翌日、前日の高値ちょうどから寄り付き、大陰線となるもの。一種の抱線であるので上位に出た場合は要注意。 2005 年 10 月 14 日にイーアクセス (9427) の週足に出ている。 2004 年 1 月 30 日にインフォコム (4348) の週足に出た。このときは陽線が大陰線で抱く形となり、大幅に下げた。 2005 年 7 月 15 日に W&G(4821) の日足に出た。その後も下落基調は続いた。</p>
	<p>売り、買い 相場上位でこの抱きはらみができると天井とみる。左は 2005 年 3 月 24 日に日足のオンコセラピー (4564) に出た抱きはらみ。しかもよく見ると「歯ブラシ」となっている。その数日後下放れて 5 万円ほど落ちた。 右は 2005 年 10 月 12 日に日足のプレステージ (4290) に出た下位の抱きはらみ。これは底確認となり、買いとなる。そのほかにもいろいろな形があるが、一つ転換点と見てよいだろう。</p>
	<p>空 (マド) 三日目までにマドを埋めなければ、あと三十日以上の上伸力あり・・・さら押し目または下落途上の戻りも、前のマド埋めまで・・・とされる。</p>
	<p>アテ線 売り、買い 前日の線から放れて寄り付き、前日の安値 (ヒゲの先) で止まった線。下げ相場において、前日の陰線を上抜けない陽線は買い方の反撃もここまでということを示している。新規買いは控えるのが賢明で、ここは売りの局面。</p>
	<p>入り首線 売り 上記のアテ線がさらに伸びて前日線に首を入れて引けた線。ともに変化の激しいところに現れ、追撃売りの急所になるという。下げ相場において、前日の陰線を上抜けない陽線は買い方の反撃もここまでということを示している。新規買いは控えるのが賢明で、ここは売りの局面。 ただし、この線を下回ったところから追撃をかける。</p>

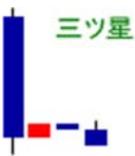
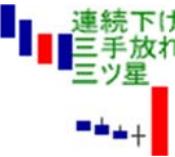
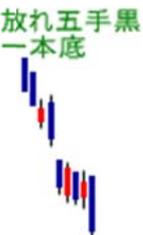
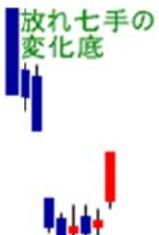
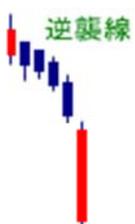
酒田五法 風林火山

 <p>差し込み線</p>	<p>差し込み線 売り 上記の入り首線の長いもので同じく追撃売りの急所。しかし、「上げ足の差し込み線」は買い。</p>
 <p>下げ足の差し込み線</p>	<p>下げ足の差し込み線 売り 下落途上に差し込み線が出た場合は陽線に対して逆方向かい。追撃売りの急所。</p>
 <p>上げ足の差し込み線</p>	<p>上げ足の差し込み線 買い 通常差し込み線は追撃売りの急所とされるが、上昇途上での差し込み線は買いとなる。 上位に高寄りのカブセ陰線が出た翌日に下放れて寄り付くものの、前日の陰線に引き返して陽線で引けた場合は買い乗せの急所である。ひっぱたかれてその動でよけいに弾むゴムまりのようなことになる。「ふるい落としにかかっているか」という心理が働いて起きる線。</p>
 <p>二本の差し込み線</p>	<p>二本の差し込み線 買い 下げの差し込み線が数日置いて再び現れたときは、売りではなく、ドテン買いしとなる。この場合は単なる買戻しではなく、押し目買い勢力が強くなった現ともいえる。ただし、中間反発型。</p>
 <p>三羽鳥</p>	<p>三羽鳥 (さんばがらす) 売り 一ヶ月以上も相場が上昇したところで、最初の陰線が下寄りして陰線が三本”タイ”で連続する形。崩落の前兆とされ、一ヶ月以上は下落するとされる。また、最初の陰線がカブセ線となるとこれも要注意。 但し、↓</p>
 <p>押え込み</p>	<p>押え込み 買い 最初の陰線が上放れた位置から来るのは”押さえ込み”となり、買い線となる。4本目が陽線となって前日値を上抜いたところから買い。前日の値幅から上放(マドをあけて)したときは上伸途上の相場であるので即買い。又、この陰線の本数が2本、4本の場合もある。</p>

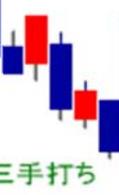
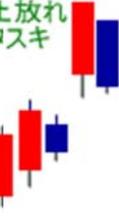
酒田五法 風林火山

	<p>上げ三法 買い</p> <p>上げ相場の初期段階、もしくは相場上位の大赤線から陰線3本が連続するが、羽鳥ではなく、先の大赤線の安値を下回らず、大赤線に陰線3本がはらみの形となる。相場の一時的な休みの形。この足は非常に微妙な形であり、しっかりと見極めが肝心。この区別は重要で、早まった判断は命取りとなる。陰線3本の翌日に上寄り陽線となるのを確かめてから買いとなる。</p>
	<p>下げ三法 売り</p> <p>下落途上に大陰線が出て陽線3本が連続するが、陽線の三手をもってしても、の大黒線を抜けずに、大黒線に陽線3本がはらみの形となる。これは底入れてなく単なるアヤ戻りである。陽線3本の翌日に安寄りの陰線となるとのみて追撃売り。大崩落の第一歩である。</p>
	<p>ヤグラ 買い</p> <p>下落相場で下値を切り下げ、短線が続き、徐々に下値を切り上げたあとに大陽線が出れば底入れ確認で買い。「およそ1ヶ月は上伸する」ともいわれている。</p>
	<p>鍋底 (なべぞこ) 買い</p> <p>鍋のような形をしていることからこのような名前で行われている。下値を切り上げて相当の期間が経ってから、上放れて寄り付いた時をもって「(上放れた陽線が出たら) ”底入れ確認” とし、そこで買い。底もみの期間は約1ヶ月から3ヶ月を要するものとする。</p>
	<p>団子天井 (だんごてんじょう) 売り</p> <p>上げ相場後、おだやかに天井を描き、しかもこれが高値でもみ合いのようにみえるため、「これは中段もみで、もう一度上放れするのではないかと期待していると、逆に下放れて天井確認となってしまう。カブセか下放れが出たら要注意考えること。</p>
	<p>二ツ星 買い、(売り)</p> <p>ともに相場が上伸または下落の途中で、極線が固まって出現するものをいう。岐点とされ、図のような上昇途上の相場なら次の上放れが買い増しの急所なの</p>

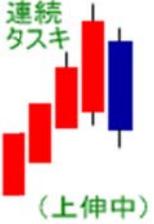
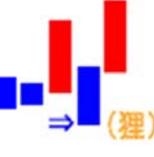
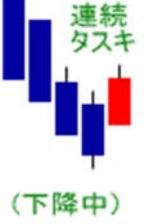
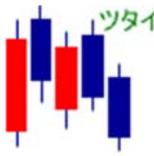
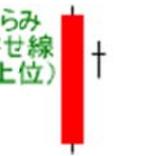
酒田五法 風林火山

	そこに注目。
	<p>三ツ星 売り、(買い)</p> <p>ともに相場が上伸または下落の途中で、極線が固まって出現するものをいう。岐点とされているが、図のような下落の途上なら、下落のためのエネルギーを強めている状態なので、次の下放れが追撃売りの急所となる。</p>
	<p>連続下げ三手放れ三ツ星 買い</p> <p>連続下げ相場で放れて3本の短線（陰線）が固まって出現すれば底入れの前兆と考えられ、さらに四手目に寄せ線が出て煮詰まり、五手目に大赤線がでると大確認となる。ここでは”本場寄一”を活用し、翌日五手目の赤線が寄り付いて寄りしたところから買い出動（五手目の陽線の様子を見てから買い。）</p>
	<p>放れ五手黒一本底（はなれごてぐろいっぽんぞこ） 買い</p> <p>下落相場から放れた陰線が始まるが、短線ではなく比較的長い陰線を出し、放て二手目から陰陽の線が交互に出て（交互に出なくてもよい）、もみ合いながら下値を切り下げ、五手目に大黒線が出れば底入れしたとみる。翌日の寄り付き注目し、前日の終値よりも（長い大黒線に対し）、翌日高値上寄りすれば”本場寄一”を活用し、ドデン買いに転換。</p>
	<p>放れ七手の変化底（はなれななてのへんかぞこ） 買い</p> <p>続落相場から、さらに大きく下放れし、売り方が安心して利食いし短線が続くいきなり高値寄り付きして陽線で引けると、目先底入れといわれる変化底。大かどうかはその後の動きによって判断することになるが、少なくともマド（空埋めは間違いのないとも言われる。買い方は3分の1の戻りを一応の目処にする）が多いよう。</p>
	<p>逆襲線 買い</p> <p>いきなり大きく下放れて寄り付くが、急反発して大赤線を出す長いアテ首線。定期的な大底入れの線ではないが、売り方は恐怖心にかられ、ひとまず様子を見ることが多い。</p> <p>この下放れ寄り付きが材料による場合には、「大底近い場合の悪材料は買い」となる。</p>

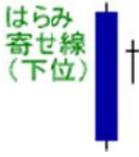
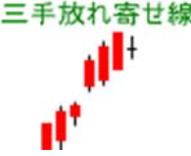
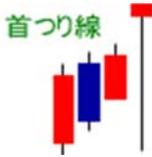
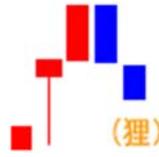
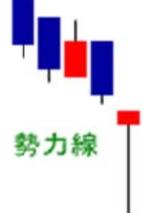
酒田五法 風林火山

 <p>捨て子線</p>	<p>捨て子線 売り 三空なら、陰の極だが、その真ん中が十字の寄せ線の捨て子になると追撃売り 急所。十字の翌日がマドを空けた陰線なら売りぬくこと。十字の翌日、上放れ 陰線であれば底入れも考えられるところ。その後の動きを慎重に見守る。</p>
 <p>捨て子線 (上放れ)</p>	<p>捨て子線 (上放れ) 売り 相場が相当に上昇して、さらに勢いよく上放れするが、十字の寄せ線に終わる これは”上放れ同事線”であり、これだけでも変化の要点とされる。さらに、 日陰線となれば、先に出た十字線は「捨て子」である。こうなると大暴落の兆 エネルギーが燃え尽きたとみられ、最後にぱっと光るロウソクの火のようなも 速やかに手仕舞い。</p>
 <p>捨て子線 (下放れ)</p>	<p>捨て子線 (下放れ) 買い 相場が相当に下落して、さらに下放れて十字線に終わると、これは”下放れ同 線”である。これだけでも変化の要点とされる。さらに翌日陽線となれば、先 出た十字線は「捨て子」であり、大底とされる。十字線の翌日上放れ陽線が出 ら買い。</p>
 <p>三手打ち</p>	<p>三手打ち 売り 高値からジリ貧、下落する相場で、にわかに超大陽線を出し、その前三日間の 幅を包んだ線。 いかにも強そうで買いたくなるが、実は戻り売りには絶好の急所とされる。</p>
 <p>上放れ タスキ</p>	<p>上放れタスキ 買い 上昇相場の初期に、マドを空けた陽線のあと、その線内から寄り付き陰線とな ものをいう。普通に見れば、下落しそうだが、陰線の出現は利食い売りが出た 果と考えられ、落ち着いたら上に加速化されるという。「タスキは逆向かいに う」のが酒田流。しかもマドを空けているので上昇余力は大きいと見る。</p>
 <p>下放れ タスキ</p>	<p>下放れタスキ 売り 下げ相場なら陰線に連続して一本陽線が立つものをいう。 陽線が出現したからといって、ここが底だと思っはならぬ。下放れタスキは 暴落の前兆。</p>

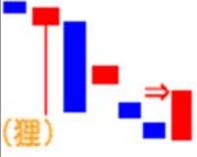
酒田五法 風林火山

 <p>連続 タスキ (上伸中)</p>	<p>連続タスキ 買い 放れずに陽線が前日線に対してタスキをかけた形で連続するものをいう。タスキに対して逆のほうに向かう。タスキの出現で再上場が予想されるため買増し検討。</p>
 <p>(狸)</p>	<p>連続タスキ、例えばこんなのも！ 買い 狸談) 石橋を渡る人は陽線確認後に買い！ 日経2007年9月18日参考</p>
 <p>連続 タスキ (下降中)</p>	<p>連続タスキ 売り 放れずに陰線が前日線に対してタスキをかけた形で連続するものをいう。タスキに対して逆のほうに向かう。これも更なる下落の前触れといえる。</p>
 <p>ツタイ線</p>	<p>ツタイ線 売り、買い 順次、陰線で下押す二本の連続線。これが三本になると三羽鳥となる。二本まなら、それだけで決定戦の意味はないといえるが、「三十日以上も上昇した相場で出現した場合は天井」とされる。但し、「上昇途上であれば、逆向かい買いとなり、押し目となる。その時の人気の判断が必要。</p>
 <p>ツタイの 打ち返し</p>	<p>ツタイの打ち返し 売り 上げ相場でツタイ線から三羽鳥になると思わせて3本目に大赤線が出現して一気に新高値をつけることがあるが、これを打ち返しといい、一種のバケ線である。強く思えるが、実は天井確認線。買い手仕手筋が無理な買いをしたときに起こる不自然な形。売りの急所であるが、翌日安値寄り付きを確認したら即座に売り。ここで買っては大損への通行手形。</p>
 <p>はらみ 寄せ線 (上位)</p>	<p>はらみ寄せ線 (上位) 売り 相場がかなり続伸して大陽線を出し翌日十時線 (寄せ線) が出ると買い勢力も着し天井とみる。</p>

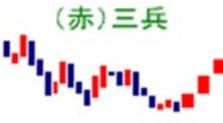
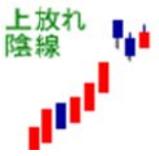
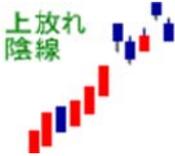
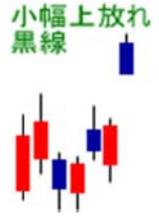
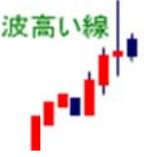
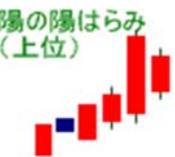
酒田五法 風林火山

 <p>はらみ寄せ線 (下位)</p>	<p>はらみ寄せ線 (下位) 買い 下げ相場の大陰線にはらむ十字線 (寄せ線) が出れば買い転換とみる。</p>
 <p>三手放れ寄せ線</p>	<p>三手放れ寄せ線 売り これははらみ寄せ線なのでこれだけでも警戒だが、しかも三手前にマドをあげ放れているので、非常に良くない。相場のエネルギーの急激な発散による極限状態を現しており、「放れ三手の新値は利食い」よりも更に厳しい線とされる。日目をつむってドテン売り敢行！。翌日安寄りは大暴落の始めと読む。このように万人が強気となり熱くなった大相場するときこそ、このようなパターンがいつれるかを常に注意する。</p>
 <p>首つり線</p>	<p>首つり線 売り ”高値波乱”の形。まず上放れて寄り付く。おそらくマバラの売り方が踏むが次の瞬間、買い方の成り行き利食い売りが殺到して下落し、さらに押し目待ち買いで高値引けという線。下ヒゲが実践の三倍以上あるものをいう。いかにも昇エネルギーを残しているような気がするが、これがクセ物で、ここで買って首つりものといわれる。</p>
 <p>(狸)</p>	<p>首吊り線、たとえばこんなやつ！ 首吊りが出れば、かなりの注意が必要。首吊り出たら売る準備、もしくは即売どうしても売れない時は、最後まで引っ張り翌日までには売ってしまおう。その後万一上がった時はあきらめること。 (4304イーストア2007年6月15日参考)</p>
 <p>勢力線</p>	<p>勢力線 買い 下放れて高値引けの下ヒゲが長い陽線。買い方がほぼ投げ切って、下げのエネルギーが終わった状態という。売り玉は一応退陣「休戦を可とする」となる。</p>

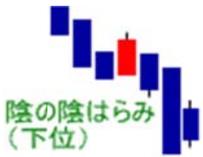
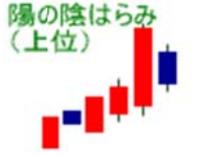
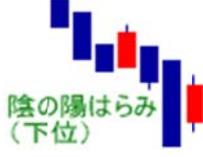
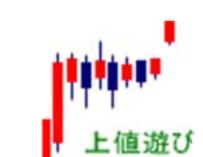
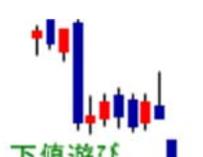
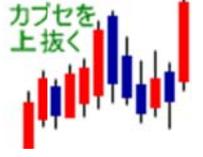
酒田五法 風林火山

	<p>勢力線、例えばこんなのも！</p> <p>買い</p> <p>狸談) 長い下げ相場からやっそこ勢力線が出たと思ったら、翌日大陰線・・・思うようには行かないものです。しかし、その後の足型をヒントに応用力をつましよう！大陰線の後「陰の陽はらみ」となり攻防の分岐点と見ます。その後陰線を出しています。酒田五法では「陰の陽はらみ」の翌日に注意し、「下寄り陰引けなら売り」、「上寄り陽引けなら買い」となっていますが、実際は⇒が大底となりました。このような複合型の場合、「勢力線」「陰の陽はらみ」の2つの転換線を重要視し、又、地合いも頭に入れないから解釈していくことが大切になってきます。(2385 総医研 2007年5月2日参考)</p>
	<p>三山</p> <p>売り</p> <p>大天井を形成する骨子の線。相場が上昇し、買い人気も旺盛でありながらも、げこじれて同じ位置に上下運動を繰り返す。三山を構成するのに1ヶ月以上かかる。真ん中の山が飛び出したのが三尊で、もっとも強力な天井構成。大天井ともなれば、一年に一回以上はないものとされる。</p>
	<p>三川</p> <p>買い</p> <p>三山の反対。真ん中が下に突起すれば”逆三尊”となり、大底。少なくとも数ヶ月の下落から起こる現象で、一年に一回しか出ないのが原則。</p>
	<p>三空踏み上げ</p> <p>売り</p> <p>マドあけが三つ連続する形。</p> <p>2つ目のマドあけからは買い方は、調子に乗らずに冷静に利食いすることが肝。3つマドをあけた後は、寄せ線、カブセ線を待って売り。</p>
	<p>三空叩き込み</p> <p>買い</p> <p>買い方の総投げによって生じる。大底が近いとみて買い出動！</p>

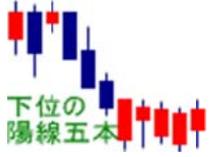
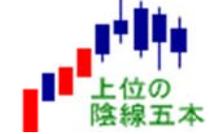
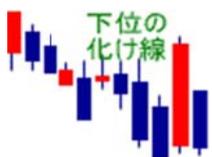
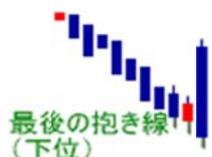
酒田五法 風林火山

 <p>(赤)三兵</p>	<p>三兵 買い ある程度の底もみを経た状態から、短陽線3本連続したもの。上昇開始の合図。但し陽線の3本目に注意。3本目の陽線が上髭長い場合は、「赤三兵先詰まり」といい上昇力が鈍っているサイン。3本目の陽線が極線の場合は、「赤三兵思案」といい、下落転換が近づいていることを示す。</p>
 <p>上放れ陰線</p>	<p>上放れ陰線 買い めったに出ない珍しい線。 上昇相場でマドをあけて上放れ陰線となる、ここを逆に買い乗せる。しかしこれが2度出るようであれば売り。</p>
 <p>上放れ陰線</p>	<p>上放れ陰線 売り 上昇相場でマドをあげて陰線となることが2度出る場合には天井と見て売り。</p>
 <p>小幅上放れ黒線</p>	<p>小幅上放れ黒線 買い 相場が安い水準で短線を続ける小幅往来相場から、小さくマドをあけて上放れ線になると、一応相場は休眠から覚めた格好となり、「以後6日間の上伸する」ともいわれている。しかし目先の変化底でもあり、売り手の手仕舞い場と考え見方もある。さらに上ヒゲがやや長めなのはあまり強くなく、底入れの決定線はいえない。</p>
 <p>波高い線</p>	<p>波高い線 売り、買い 寄り付きから大きく上昇するが、その後急落してそこそこに引けた線で、強弱勢力が拮抗してどちらも戦い疲れた形。大相場にはよくでるといえる。これは翌日以降の形を見て決める。翌日に気の抜けたはらみ線が出た場合は、翌日以降早立ち直ったほうに付く。はらみ線の値幅以上に出たところから仕掛ける。(高圏では天井確認線の一つと考えたほうがよいだろう。)</p>
 <p>陽の陽はらみ(上位)</p>	<p>陽の陽はらみ(上位) 売り 急騰した後によく出る。 大陽線のあと息切れして安値寄り付き、一応は陽線引けとなるが、前日の引け</p>

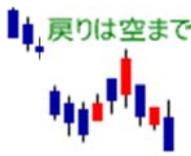
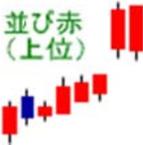
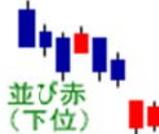
酒田五法 風林火山

	<p>が抜けない線。相場は更年期に入り、そろそろ天井ひとまず退散。又、翌日に「ブセ線か、寄せ線が出たら”ドデン売り”」</p>
 <p>陰の陰はらみ (下位)</p>	<p>陰の陰はらみ (下位) 買い 急落した後によく出る。大陰線のあと、陰線となるが前日安値を切らない。そろそろ下降力が乏しくなったとみる。翌日に、上寄りの陽線か、下寄りでも抱き（陽線）が出れば勇敢に”ドデン買い” 底値圏のはらみはその価格帯で売り手買い手の拮抗が始まったとみて、底が見えてきた証拠と考える。</p>
 <p>陽の陰はらみ (上位)</p>	<p>陽の陰はらみ (上位) 売り、買い 陽の陽はらみと違い、陽の陰はらみとなると、ドデン買いというよりも、攻防分岐点とみる。 翌日に注意し、「上寄り陽引けなら買い増し」、「下寄り陰引けなら売り」</p>
 <p>陰の陽はらみ (下位)</p>	<p>陰の陽はらみ (下位) 売り、買い 陰の陰はらみと違い、陰の陽はらみとなると、ドデン売りというよりも、攻防分岐点と見る。 翌日に注意し、「下寄り陰引けなら売り」、「上寄り陽引けなら買い」</p>
 <p>上値遊び</p>	<p>上値遊び 買い 強力な太陽線をもって上伸、そこで高値もみの後、そこから上放れたところではない。踊り場脱却のサイン。 大相場の可能性あり。ただし高値もみ中の短線は7本から11本が限度で、あっても多いのはよくない。</p>
 <p>下値遊び</p>	<p>下値遊び 売り 突っ込みの急落の後、もみ合いとなり、平行な短線が続いた後、下放れると売マド空け陰線と同時に大暴落が始まるとされる。</p>
 <p>カブセを 上抜く</p>	<p>カブセを上抜く 買い 相場が上伸後、カブセ線の陰線が出るものの、先の高値を上抜く強力な陽線が出た場合は買い。 めったにない大相場になる可能性大。</p>

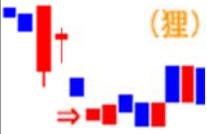
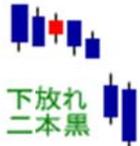
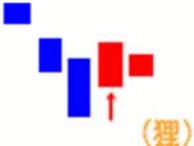
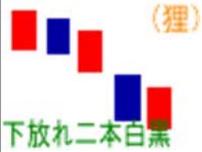
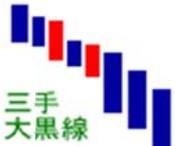
酒田五法 風林火山

 <p>下位の陽線五本</p>	<p>下位の陽線五本 買い 相場が何とか上げたがっている状態。売り方の勢力は厚いものの、買い方がじわと反撃に転じた状態。5回も有効な攻撃をかけられると、売り方は次第に恐怖を感じ、踏み上げ相場となる可能性が強い。”ドデン買い”の急所</p>
 <p>上位の陰線五本</p>	<p>上位の陰線五本 売り ”上もだえ”から次第に売り方の反撃が功を奏しだし、五角の勝負から六分、分で売り方優勢となり、総投げになる可能性が強い。”ドデン売り”の急所</p>
 <p>下位の化け線</p>	<p>下位のバケ線 売り 下げ相場で底入れの決定戦がなく、突然イレギュラー的に大陽線が出るものではない。これは戻り売り。ただし、この線が出ると売り方の調子が狂うためか、あとの下げは小さくなるという。バケ線が出たら、急がずに流れを見てから売りませ。「手待ってから」が酒田流。又、「カブセを上抜く」としっかりと区別、見極めが必要。</p>
 <p>最後の抱き線 (上位)</p>	<p>最後の抱き線 (上位) 売り 高値圏で陰線を出した翌日に大陽線で包む。通常の抱き線 (ツツミ足) と逆でここで買うのは相場と心中を意味する。下位の化け線、三手打ちと同様、見るからに強そうだがこれがクセ物。翌日に抱き線の引け値に比べて下寄りすれば、即ち売り。仮に高寄りしてもカブセの陰線になることが多いので、それを確かめて次の日にはやはり売り。陽線を包む長大陰線でもやはり売り。</p>
 <p>最後の抱き線 (下位)</p>	<p>最後の抱き線 (下位) 買い 相場が下落して陽線を出し、これを翌日の大陰線で包む。抱き線の翌日、意外にも上寄りすることが多く、それを確認してから買い。陰線を包む長大陽線でもよい。むしろこちらのほうが強力。但し、下寄りすれば、見送りとなるものの、売り方は方向転換の要点とされる。</p>
 <p>押しは空まで</p>	<p>押しは空まで 買い ”空”とはマドをあけて値が飛ぶことを言うが、そこからの押し目は”マド埋</p>

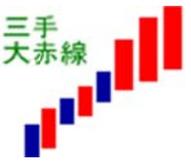
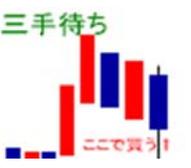
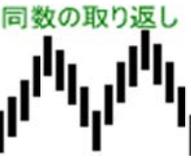
酒田五法 風林火山

	<p>め”が限度ということ。マドを埋めるまで2、3ヶ月かかっても気長に待つのがいい。マド埋め完了となれば、すかさず買い。</p> <p>但し、マドを埋めてもなお下げ止まらないときには上昇基調の相場が完全に壊れ、”古巣に戻る相場”とみて弱気転換で売り。</p>
	<p>戻りは空まで 売り</p> <p>マドを埋めるところに待ち伏せて、弱ければ売り乗せ。</p> <p>もし、マドを埋めて、なお陽線を続けるようであれば、「単なる戻りではない」とみていさぎよくドデン買いに転換</p>
	<p>行き詰まり線 売り</p> <p>比較的長めの陽線に小陽線がはらんで、肩に乗りかかる形で前日の高値を抜けない。</p> <p>これも強そうに見えるが、ダマシで、新値を超えられないのは「まだはもうなり」とまず退却。</p>
	<p>並び赤 (上位) 買い</p> <p>じり高の動きから、上放れて、ほぼ同線の陽線が仲良く並んだ形。上放れて陽が出るということは成行買いが入っていることを示す。翌日に上寄りすれば大げの前兆とされ、かなり強い。すかさず買い。踊り場脱却のサイン。めったに出ない足。</p> <p>狸談)・・・とあるが、ポイントは、ほぼピッタリとそろった上で、翌日上寄りが条件。ピッタリそろっていないものは、「並び赤モドキ」とする。この場合、案外大したことがないこともある。(2007年5月23日 8411みずほ)</p>
	<p>並び赤 (下位) 売り</p> <p>じり下げの動きから、下放れての並び赤は、下落エネルギーに満ちており、崩れの前兆、追撃売り。</p> <p>めったに出ない足。</p>

酒田五法 風林火山

	<p>並び赤、応用 狸談) 矢印は下放れての並び赤である。しかし、このケースではその後「陰のはらみ」をつけ大底確認をし、その後急騰した。よく見ると「並び赤」となまえに、下位で「最後の抱き線」、「陽の陽はらみ」が出ている。そのため、この部分をも重要視しなければならない。酒田五法では「並び赤」は下落エネルギーに満ちていて崩落の前兆としているが、このケースでは「たまたま陽線が2本並んだだけ」と考えたほうがよいだろう。(2007年7月20日 4689フー)</p>
	<p>下放れ二本黒 売り 下落途上で更に下放れる。普通は一応底入れで小反発することが多いが、抵抗なく連続陰線を出す場合は買い方総崩れの底抜け。暴落の兆候といえる。このパターンこそ売りの急所。うっかり見逃したらもうお終い。泥船が沈んでいくように下がっていくのでさっさと売り抜けること。狸談) 下放れ二本黒が出た翌日かしばらくは急騰したりやや持ち直すこともある。しかし、それに騙されてはいない。基本的にこれが出たときには売りが基本。どうしても手放せないときには日々細心の注意を払うこと。その時の足型を見て、上に行くか、下に行くかわからないときには、それはもうギャンブル。手堅く売りに徹せよ。これでうまくいかななくても仕方なし。</p>
	<p>下放れ二本黒、応用 下放れ二本黒なのに大底となる場合 狸談) 下放れ二本黒は基本は売りだが、稀に底確認の場合もケースによってはある。ポイントは①急落が続き下がりすぎた場合であること、②2本目の陰線が浅めであることと、③2本目陰線の後に陽線となることである(尚、2本目陰線後、ほかの「底の足型」などが出た場合も)。この場合は地合いも参考にして備すること。(2007年8月17日 2725 ITX参考)</p>
	<p>下放れ二本白黒 売り 下落途上で更に下はなれる。下放れ二本黒との違いは、陰線2本ではなく、陽線と陰線が出ること。腹まず、抱かずの白黒が出たときを指す。下放れ二本黒は確定的な売りではないが十分注意すること。</p>
	<p>三手大黒線 買い 下位の相場の連続大陰線であっても、下放れから始まっていないときは、3本</p>

酒田五法 風林火山

	<p>陰線で大引け買い。翌日陽線が出れば更に積極的に買う。自律的な戻りが入るよほどの材料が関与しない限り急落も3本までといったところ。1ヶ月は上げ相場と考える。</p>
	<p>三手大赤線 売り 上位の相場の連続大陽線であっても、3本目の陽線が出れば売り。急騰も3手対応の限度と心得る。 自律的な押しが入る。</p>
	<p>三手待ち 買い 若くして新値が出たときは慌てず三手待つべし。極線が続いて、なべ底を入れ後、いきなり大陽線を出したときなどは特に。人間でも出る杭は打たれること多いように、若いうちは保守派から頭を押さえられるもの。しかも懐疑派もまだまだ多いもの。こういう時には慌てて飛びつかず、三手押しを待って買い出動</p>
	<p>同数の取り返し 売り、買い 中断もみの相場によく出る规律的な往来相場（ボックス相場）。値幅がだんだん縮まってくると三角もちあいの形になる。このようなボックス相場で器用に立回るのであれば、「値幅よりも日柄に注意する」。たとえば6日あげて6日下のパターンがあれば、次も同じようなパターンが来ると見る。</p>

狸山ポン法

ポン線は万能ではない。しかし、栄枯盛衰の歴史を振り返れば狸心理の不変性、共通性がわかるように、狸相場の世界でも投資家心理の経験的な「法則性」が認められるのも事実。その投資家心理の急所をズバリ表現しているのが狸山ポン法である。

狸山ポン法の本質とするものは「食う、練る、遊ぶ」の三法にあり、出動、手仕舞いに際しては敏なることと教えている。（ぼんぼこ新聞社「狸山ポン法は弱肉強食より」）

（狸山ポン法は酒田五法を参考にして狸なりに知恵を絞り、これまでの相場の流れや今後の予想等を示したものです。内容の責任については狸なので一切負いません。）

酒田五法は風林火山（日本証券新聞社）

その他参考文献 北浜流一郎の酒田五法パーフェクトガイド（日本証券新聞社）

酒田五法パート2 超実践編（日本証券新聞社）